



DFAM™ | DRUMMER FROM ANOTHER MOTHER™

ユーザース・マニュアル



「私は100%確信しています。こうしたモノ(シンセサイザー)が
たとえ生物学的な意味で生きていないとしても、何らかの意味で
私たちと疎通できる意識があるということを。」

- Dr. Robert Moog -

安全上のご注意

ご使用になる前に必ずお読みください

ここに記載した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の方々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。注意事項は誤った取り扱いで生じる危害や損害の大きさ、または切迫の程度によって、内容を「警告」、「注意」の2つに分けています。これらは、あなたや他の方々の安全や機器の保全に関わる重要な内容ですので、よく理解した上で必ずお守りください。

マークについて

製品には下記のマークが表示されています。

WARNING:

TO REDUCE THE RISK OF FIRE OR ELECTRIC SHOCK DO NOT EXPOSE THIS PRODUCT TO RAIN OR MOISTURE.



マークには次のような意味があります。



このマークは、機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。



このマークは注意喚起シンボルであり、取扱説明書などに一般的な注意、警告、危険の説明が記載されていることを表しています。

火災・感電・人身障害の危険を防止するには

図記号の例

	△ 記号は、注意（危険、警告を含む）を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれています。左の図は「一般的な注意、警告、危険」を表しています。
	⊘ 記号は、禁止（してはいけないこと）を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「分解禁止」を表しています。
	● 記号は、強制（必ず行うこと）を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を表しています。

以下の指示を守ってください

警告

この注意事項を無視した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性が予想されます

- 電源プラグは、必ず AC100V の電源コンセントに差し込む。
- 電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりを拭き取る。感電やショート恐れがあります。
- 本製品はコンセントの近くに設置し、電源プラグへ容易に手が届くようにする。
- 次のような場合には、直ちに電源を切って電源プラグをコンセントから抜く。
 - 電源コードやプラグが破損したとき
 - 異物が内部に入ったとき
 - 製品に異常や故障が生じたとき修理が必要なときは、コルグ・サービス・センターへ依頼してください。
- 本製品を分解したり改造したりしない。
- 修理、部品の交換などで、取扱説明書に書かれていること以外は絶対に行わない。

- 電源コードを無理に曲げたり、発熱する機器に近づけない。また、電源コードの上に重いものをのせない。電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。
- 大音量や不快な程度の音量で長時間使用しない。大音量で長時間使用すると、難聴になる可能性があります。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。
- 本製品に異物（燃えやすいもの、硬貨、針金など）を入れない。
- 温度が極端に高い場所（直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など）で使用や保管はしない。
- 振動の多い場所で使用や保管はしない。
- ホコリの多い場所で使用や保管はしない。



● 風呂場、シャワー室で使用や保管はしない。



● 雨天時の野外のように、湿気が多い場所や水滴のかかる場所で、使用や保管はしない。

● 本製品の上に、花瓶のような液体が入ったものを置かない。

● 本製品に液体をこぼさない。



● 濡れた手で本製品を使用しない。

注意

この注意事項を無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物理的損害が発生する可能性があります



● 正常な通気が妨げられない所に設置して使用する。

● ラジオ、テレビ、電子機器などから十分に離して使用する。

ラジオやテレビ等に接近して使用すると、本製品が雑音を受けて誤動作する場合があります。また、ラジオ、テレビ等に雑音が入ることがあります。

● 外装のお手入れは、乾いた柔らかい布を使って軽く拭く。

● 電源コードをコンセントから抜き差しするときは、必ず電源プラグを持つ。



● 本製品を使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜く。電源スイッチをオフにしても、製品は完全に電源から切断されていません。



● 付属の電源コードは他の電気機器で使用しない。付属の電源コードは本製品専用です。他の機器では使用できません。

● 他の電気機器の電源コードと一緒にタコ足配線をしていない。

本製品の定格消費電力に合ったコンセントに接続してください。

● スイッチやツマミなどに必要以上の力を加えない。

故障の原因になります。

● 外装のお手入れに、ベンジンやシンナー系の液体、コンパウンド質、強燃性のポリッシャーを使用しない。

● 不安定な場所に置かない。

本製品が落下してお客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。

● 本製品の上に乗ったり、重いものをのせたりしない。

本製品が落下または損傷してお客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。

● 本製品の隙間に指などを入れない。

お客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。

● 地震時は本製品に近づかない。

● 本製品に前後方向から無理な力を加えない。

本製品が落下してお客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。

データについて

操作ミス等により万一異常な動作をしたときに、メモリー内容が消えてしまうことがあります。データの消失による損害については、当社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。データを他のメディア等へセーブすることのできる製品では、大切なデータはこまめにセーブすることをお勧めします。

輸入販売元: KORG Import Division
〒206-0812 東京都稲城市矢野口4015-2

//www.korg.co.jp/KID/

目次

- 05 開封して中身を確認する**
- 05 接続する**
- 06 DFAMオーバービュー**
 - 06 DFAMシグナル・フロー
 - 07 DFAMの基本操作
- 12 各部の名称と機能**
 - 12 VCO
 - 15 MIXER
 - 16 VCF
 - 19 VCA
 - 21 アナログ8ステップ・シーケンサー
 - 23 パッチベイ
- 29 複数台のDFAMを同期させる**
- 30 DFAMをMOTHER-32に同期演奏させる**
- 31 DFAMをユーロラック・モジュールとして使う**
- 32 プリセット&パッチ・シート**
- 39 仕様**

開封して中身を確認する

この度はMoog DFAM (Drummer From Another Mother)をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。開封の際は本体の破損や同梱品の紛失などがないようご注意ください。また、梱包箱や梱包材は何らかの理由で本機を発送する必要がある時のために保管されることをお勧めします。

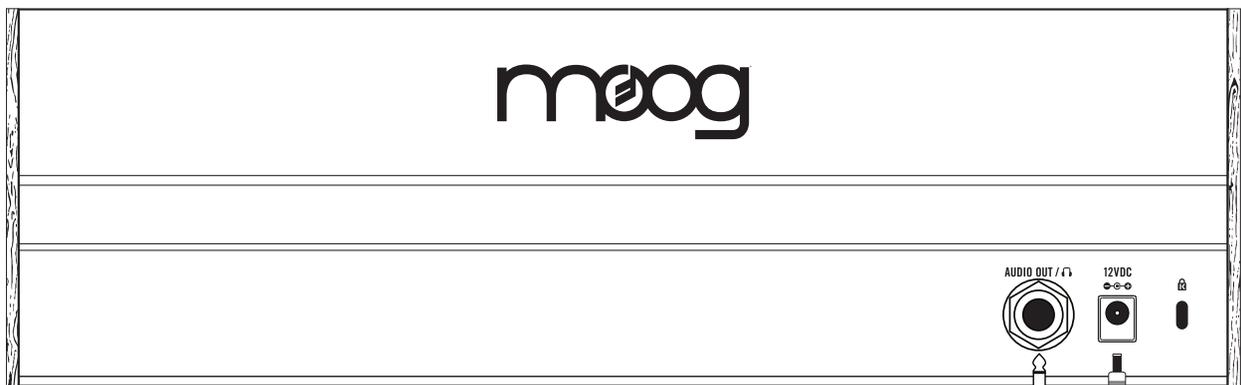
梱包箱には次のアイテムが入っています：

1. DFAMセミモジュラー・アナログ・パーカッション・シンセサイザー本体
2. パワー・サプライ
3. 取扱説明書
4. オーバーレイ
5. パッチ・ケーブル
6. 製品登録カード

必要なもの：

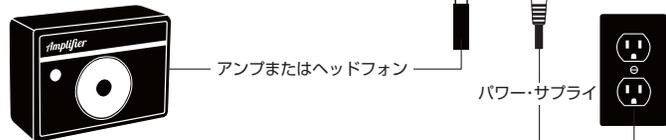
1. ステレオ・ヘッドフォン(プラグは標準ステレオ・フォンジャック)または標準プラグ仕様の楽器用ケーブル(シールド)とアンプ内蔵スピーカー
2. 適正に配線されているコンセント

接続する



電源の接続

付属のパワー・サプライをDFAMの本体背面にある〔12VDC〕電源コネクタに接続します。パワー・サプライはユニバーサル仕様ですので、100～240V、50/60HzのAC電源に対応しています。パワー・サプライのもう一方の電源コードをコンセントに接続します。



注意：DFAMには電源スイッチはありません。電源を接続すると**オン**になります。DFAMは完全アナログ機器ですので演奏する前に数分間のウォーミングアップが必要です。例えば冷えたクルマの中に一晩放置していたなど、一定期間寒冷な場所に保管していた場合は、オシレーターチューニングが安定するまでの時間がより長かかります。また、DFAMを直射日光が当たる場所で使用しないでください。

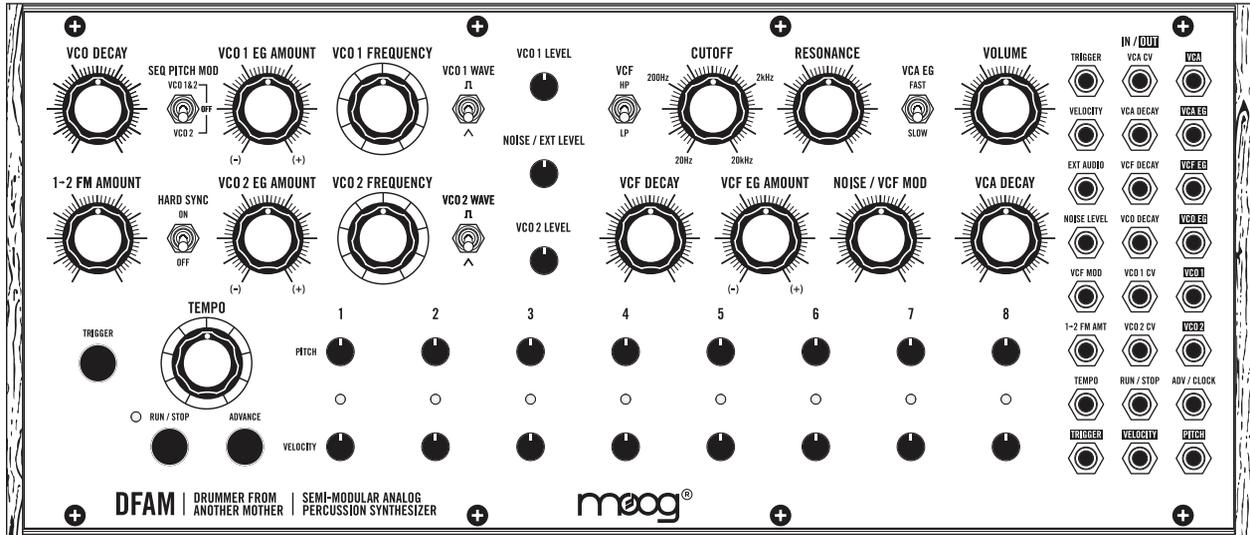
オーディオの接続

〔VOLUME〕ノブを左いっぱいに戻した状態にし、楽器用ケーブル(シールド)を本体背面の〔AUDIO OUT〕ジャックに接続します。ケーブルのもう一方をアンプ内蔵スピーカーやミキサーのインプットに接続します。〔AUDIO OUT〕ジャックはモノのプラグ(TS)とステレオ・プラグ(TRS)の両方に対応しています。

警告：バランス接続用のTRSケーブルを本機のライン出力用途に使用しないでください。位相の干渉が起こり、信号のレベルが極めて低い状態になってしまいます。

DFAMオーバービュー

Drummer From Another Mother (DFAM)は、インタラクティブなセミモジュラー・アナログ・パーカッション・シンセサイザーで、トラディショナルなドラム・マシンとは異なり、幅広い音色を作り出せます。セミモジュラー・アナログ・シンセサイザーのMother-32のシリーズ製品であるDFAMは、ユニークなサウンドでパーカッションなどのパターンを簡単に作り出せるユニットです。



サウンド・ソース

2系統のVCOとホワイト・ノイズ・ジェネレーター

サウンド・ブレンディング

3チャンネル・ミキサー

サウンド・シェイピング

4ポール・ローパスまたはハイパス・ラダー・フィルター(選択式)

モジュレーション

ポルテージ・コントロール・ディケイ付きエンベロープ・ジェネレーター×3

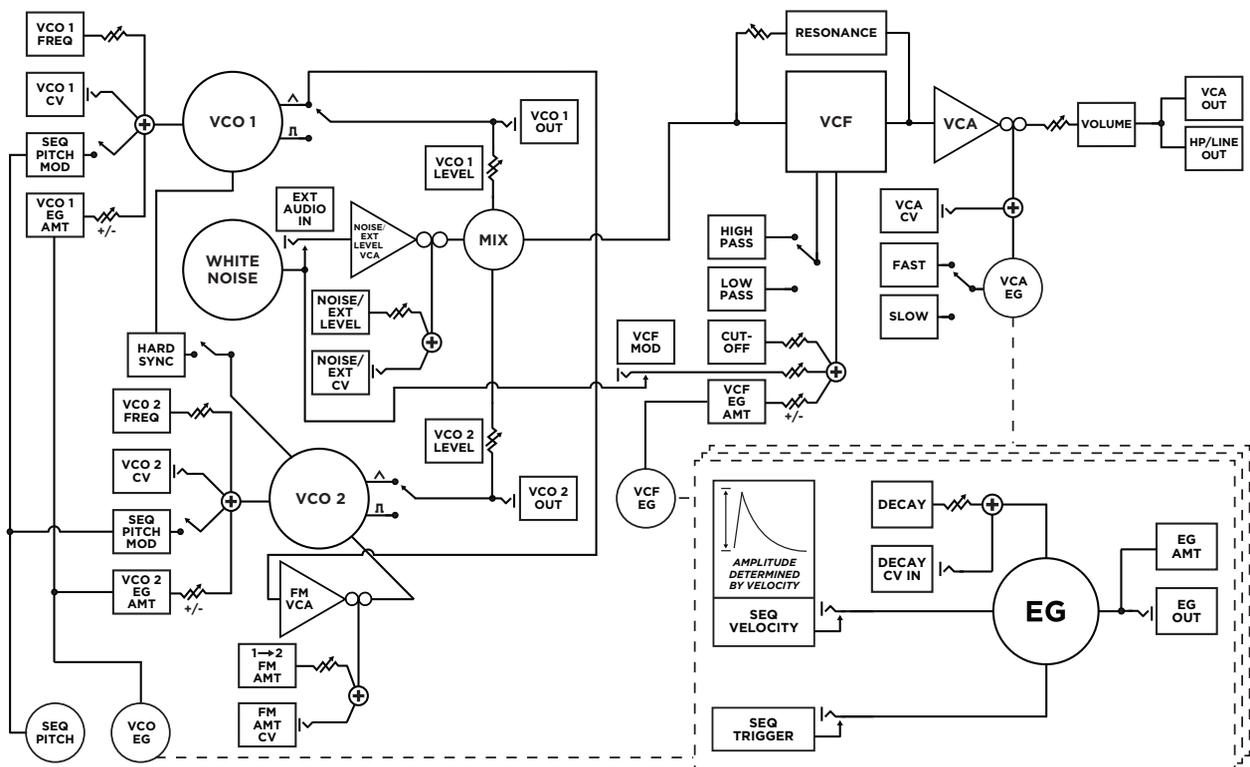
シーケンス

8ステップ・アナログ・シーケンサー(ステップごとにピッチとベロシティのプログラム可能)

パッチング

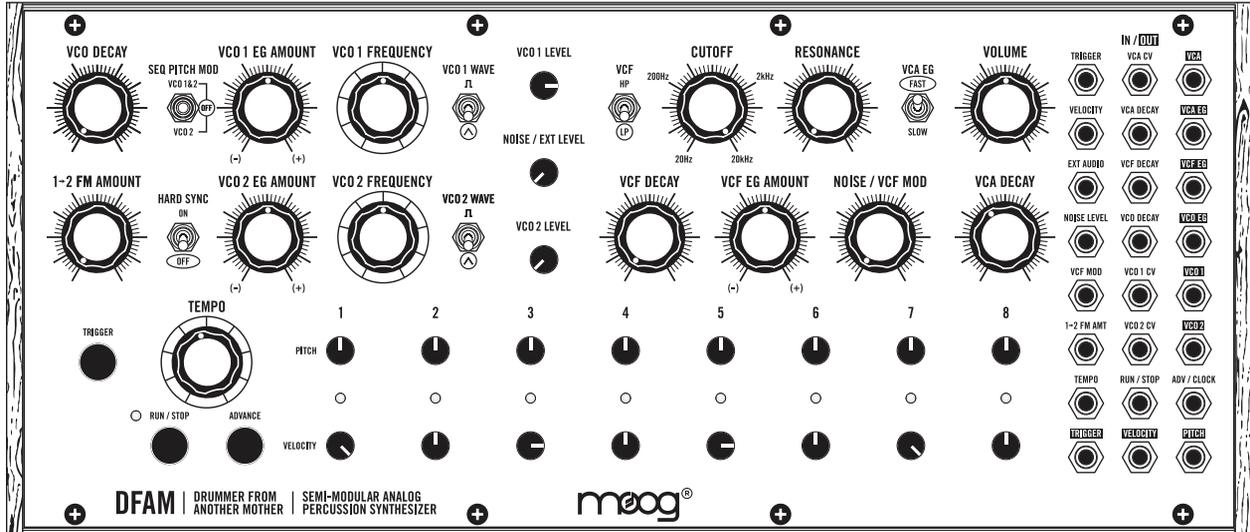
24回路モジュラー・パッチベイ(インプット×15、アウトプット×9)

DFAMシグナル・フロー



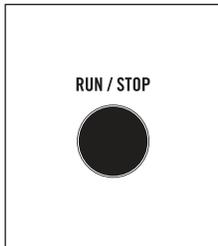
DFAMの基本操作

直感的なリズムを「シンセサイズ」できるDFAMの基本操作についてご紹介します。ここからの数ページには、使用上の色々のヒントやトリック、パッチのアイデアなども入っていますが、何よりも先にいい感じのサウンドを作りたい場合は、32ページのプリセットページで色々な音色セッティングを試してみる方法もあります。



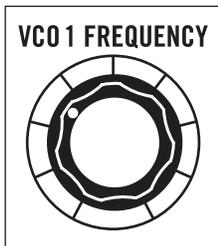
基本セッティング

最初に上図のようにDFAMを基本セッティングにしてみましょう。



シーケンサーのスタート

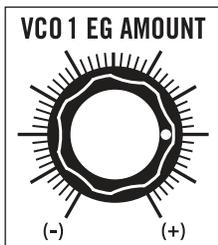
(RUN/STOP) ボタンを押すとシーケンサーがスタートします。



ピッチの設定

(VCO 1 FREQUENCY) ノブをゆっくりと左に回していくと、ディープなベース音が繰り返し鳴ります(時計の10時~11時くらいの位置)。オシレーターのピッチを設定する最初の手順は、このような方法から始めます。

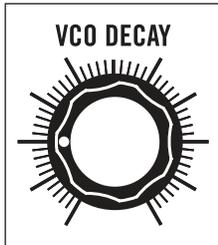
注意: DFAMはオシレーターを2基搭載し、これらの音が音色の源になります。また、DFAMはホワイト・ノイズ・ジェネレーターも内蔵していますが、これにつきましては後述します。



パンチを加える

ではここで、ベース音にちょっとしたパンチを加えてみましょう。(VCO 1 EG AMOUNT) ノブを時計の3時の位置にします。これにより、エンベロープでオシレーター1のピッチをモジュレーションします。

DFAMの基本操作(続き)



ピッチに変化をつける

(VCO DECAY)ノブを使用することで、ステップごとのピッチに動きを付けることができます。このノブは(VCO EG AMOUNT)ノブが最低値でない場合に有効となります。(VCO DECAY)ノブをゆっくり上げていき、音の変化を聴いてみましょう。音が変わる様子が分かりましたら、このノブを時計の9時の位置に合わせます。

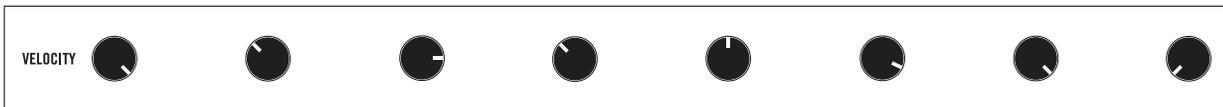
ヒント: (VCO EG AMOUNT)ノブはDFAMでの音作りでは非常に重要なパラメーターです。このノブのセッティング次第でコミカルで安っぽいサウンドにもなれば、迫力あるキック・サウンドにもなります。(VCO 1 EG AMOUNT)ノブを色々な位置にして、音のキャラクターの変化を聴いてみてください。ひと通り実験が終わりましたら、このノブを時計の3時の位置にセットします。

シーケンサーのベロシティ

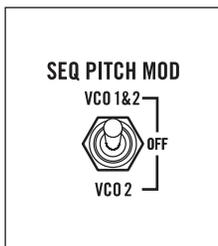


シーケンサーの(VELOCITY)ノブを8個すべて最大値(右いっぱい)の位置にします。各ステップの音が同じように鳴っていることが分かります。

リズムのバリエーション



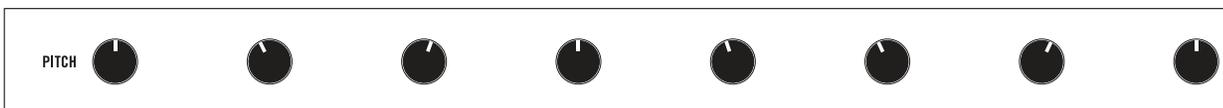
シーケンサーの(VELOCITY)ノブを上図のようにステップごとに異なるセッティングにし、各ステップでの音量やパンチの感じの変化を聴いてみましょう。このセッティング次第でシーケンスのリズムがよりインパクトのある感じになります。気に入ったセッティングになりましたら、次に行きます。



シーケンスのピッチ

シーケンサーの各ステップに音程を付けます。(SEQ PITCH MOD)スイッチを「VCO1&2」にセットします。この時点でシーケンスの各ステップの音程が微妙に変化しているはずです。

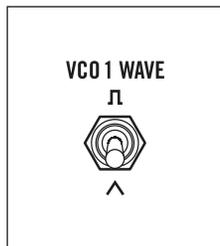
ピッチのバリエーション



シーケンサーの(PITCH)ノブをそれぞれ微調整して音の変化を聴いてみましょう。このノブの変幅は非常に大きく、エクスペリメンタルなフレーズも簡単に作り出せます。

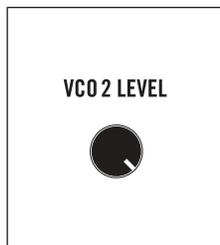
ヒント: 各ステップの音のパンチ(EGによるピッチ変化)が大きすぎる場合は、(VCO 1 EG AMOUNT)ノブをセンター位置に近づけて変化量を小さくします。

DFAMの基本操作(続き)



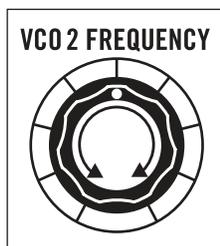
波形を切り替える

(VCO 1 WAVE)スイッチを**矩形波(上)**にセットして、音の変化を聴いてみましょう。



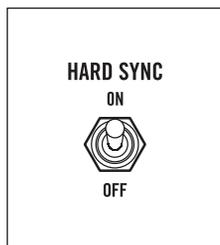
オシレーターの追加

(VCO 2 LEVEL)ノブを最大値(右いっぱい)の位置)にします。



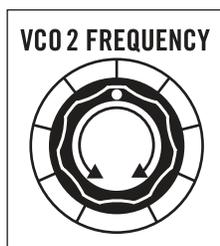
ハーモニーを作る

(VCO 2 FREQUENCY)ノブを右に回して(VCO 1 FREQUENCY)と同じにします。



ハード・シンク

(HARD SYNC)スイッチを「ON」にセットします。



ハード・シンクの音を聴く

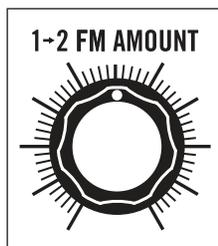
(VCO 2 FREQUENCY)ノブを最小値から最大値まで何回か回してみましょう。(HARD SYNC)スイッチが「ON」の場合、オシレーター2の音程はオシレーター1と同じになります。

注意: (HARD SYNC)スイッチが「ON」の場合、オシレーター2のピッチがオシレーター1よりも低い状態になると、オシレーター2の音が非常に小さくなったり、出なくなることがあります。

音を決める

(VCO 2 FREQUENCY)ノブを気に入った音にセットして、次に進みます。

DFAMの基本操作(続き)



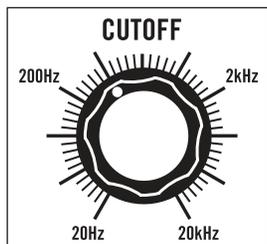
FM(周波数変調)の実験

〔1→2 FM AMOUNT〕ノブをゆっくりとセンター位置へ回して、音の変化を聴いてみましょう。オシレーター2のピッチがオシレーター1で揺さぶられている(変調されている)状態になります。

ここで少し時間を取って〔1→2 FM AMOUNT〕ノブと〔VCO 2 FREQUENCY〕ノブを色々なセッティングにして、それぞれの作用を実験してみましょう。自由にノブを片方ずつ回してみたり、両方同時に回してみましょう。これだけでも色々な音が作り出せます。

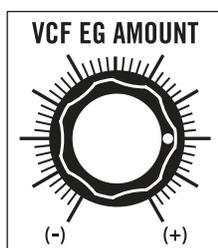
注意: FMの効果は、〔HARD SYNC〕スイッチを「OFF」にするとより分かりやすくなります。

気に入ったサウンドになりましたら、そのままの状態にして次のステップでその音色をさらに変化させてみましょう。



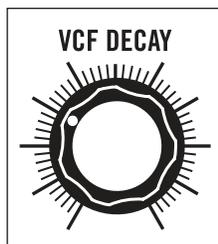
サウンドのフィルタリング

フィルターの〔CUTOFF〕ノブを時計の11時の位置に合わせます。音色が少し暗くなったことが分かります。



フィルター・モジュレーション

〔VCF EG AMOUNT〕ノブをゆっくりと時計の3時の位置に合わせます。これにより、フィルターのカットオフ・フリクエシーをエンベロープでモジュレーションします。

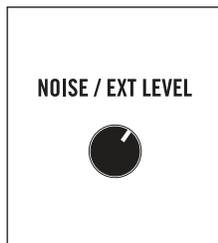


フィルターのアーティキュレーション

〔VCF DECAY〕ノブで音色にさらに変化を付けます。このノブをゆっくりと上げていき、音色の変化を聴いてみましょう。シーケンスの各ステップで音色が変化します。

ヒント: 〔RESONANCE〕ノブを少し上げると低域や少し弱くなり、クセのある音色になります。

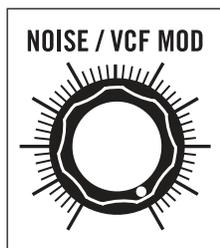
ひと通り実験が終わりましたら、〔VCF DECAY〕ノブを時計の10時の位置に合わせます。



サウンド・ソースとしてノイズを使う

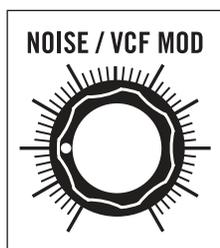
〔NOISE / EXT LEVEL〕ノブを時計の1時の位置に合わせます。音色にノイズがミックスされて、よりナチュラルなアタックが出て、より深みのある音色になります。

DFAMの基本操作(続き)



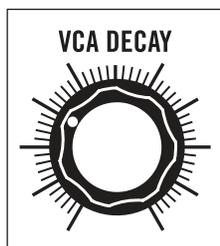
ノイズをモジュレーション・ソースとして使う

〔NOISE / VCF MOD〕ノブをゆっくり最大値まで上げてみましょう。サウンド・ソースとして使う場合との違いは、ここではノイズでフィルターをモジュレーションしている点です。音に深みが出る代わりに、音が歪んだりローファイな感じになります。



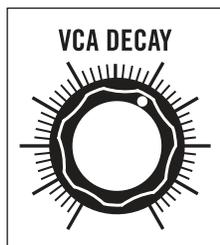
ノイズ・モジュレーションをセットする

〔NOISE / VCF MOD〕ノブを時計の9時の位置に合わせます。



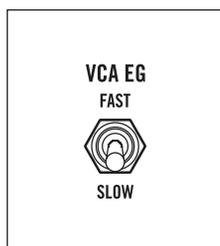
VCAのディケイを短くする

〔VCA DECAY〕ノブを時計の10時の位置に合わせ、音がタイトになった感じを聴いてみましょう。伸びていた音をVCAでカットするとこのように短い音になり、音量をダイナミックにコントロールする場合に欠かせない機能です。



VCAのディケイを長くする

〔VCA DECAY〕ノブを今度は時計の1時の位置に合わせて、音が伸びた感じを聴いてみましょう。音の鳴り終わりの感じがそのままになります。



アタックをソフトにする

〔VCA EG〕スイッチを「SLOW」にセットし、〔VCA DECAY〕ノブを9時と10時の間くらいの位置にします。アタック(音の鳴り始めの部分)がソフトになります。

注意: 〔VCA DECAY〕ノブを短い設定にした状態で〔VCA EG〕スイッチを「SLOW」にすると、より劇的に変化します。

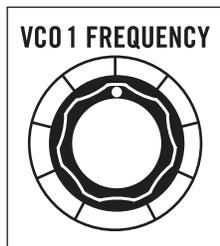
これで基本操作編は終わりです。

重要: 色々な実験をたくさんすることで使い方をより深く理解でき、シンセ・ライフがよりリッチになります。

各部の名称と機能

VCO

アナログ・シンセサイザーでは、オシレーターが音の源になります。DFAMには2基のVCO(ポルテージ・コントロールド・オシレーター)を内蔵しています。



VCO 1 FREQUENCY / VCO 2 FREQUENCY

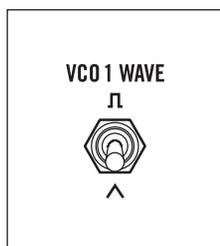
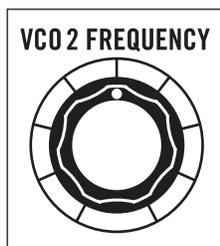
〔VCO FREQUENCY〕ノブはオシレーターの鳴り始めのピッチを設定するノブで、可変幅は10オクターブ以上です。オシレーターにモジュレーションを使用していない場合、オシレーターは色々なオクターブで正確なピッチで発音でき、パーカッシブなサウンドだけでなく音楽的なフレーズも演奏できます。

パネル上の操作でオシレーター1と2のピッチを変化させる方法は、次の3種類です：

1. 〔VCO FREQUENCY〕ノブを直接操作する
2. シーケンサーの〔PITCH〕ノブ(1~8)を使用する(21ページ参照)
3. 〔VCO EG AMOUNT〕ノブを使用する(15ページ参照)

ヒント：オシレーターのピッチを設定する際、最初にVCO1と2の〔VCO FREQUENCY〕ノブをセンター位置にしておくことをお勧めします。この位置で、シーケンサーの〔PITCH〕ノブ(1~8)をセンター位置にした状態と同じになります。

注意：オシレーターのピッチを変化させる方法が何種類もあり、設定によっては可聴帯域を超えてしまうこともあります。DFAMから音が出てない感じがする場合は、可聴帯域を超えているケースが考えられます。そのような場合、パッチベイで間違ったパッチングがないかを確認してください。多くの場合はパッチングのミスによるものです。パッチング・ミスの修正後に両方の〔VCO FREQUENCY〕ノブをセンター位置に戻します。それで問題が解決しない場合は、両方の〔VCO EG AMOUNT〕ノブをセンター位置に戻します。それでも解決しない場合は、〔SEQ PITCH MOD〕スイッチを〔OFF〕にセットします。それでもまだ解決しない場合は、7ページの基本セッティングに戻してください。



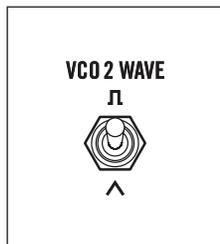
VCO 1 WAVE / VCO 2 WAVE

各オシレーターではそれぞれ異なる音色の2種類の波形を選択できます。波形の切り替えは〔VCO WAVE〕スイッチで行います。

三角波

三角波は非常に柔らかな音がする波形で、奇数次倍音をわずかに含んでいます。基音成分が非常に強く、倍音成分が少なく、倍音構成が比較的シンプルな波形です。三角波はタムやマリimba、昔のアナログ・ドラム・サウンドなど、柔らかめのサウンドを作るのに便利です。

ヒント：ミキサーの〔NOISE / EXT LEVEL〕ノブを少し上げて、ノイズを音源として混ぜると80年代風のパーカッション・サウンドに近い音色になります。



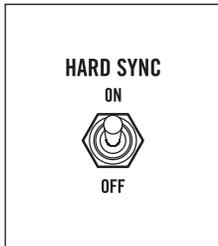
矩形波

矩形波は三角波よりも倍音成分が多く、硬めのアグレッシブな音がする波形です。奇数次倍音を豊富に含んだ波形ですが、偶数次倍音がないため、どことなく芯のない感じの音とも言えます。矩形波はディープでハードヒットなベース音色や、高いピッチでFMをかけたメタリックなサウンドに効果的です。

ヒント：フィルターの〔CUTOFF〕ノブで矩形波の音を加工することでさらにインパクトのあるパーカッション音色が作れます。

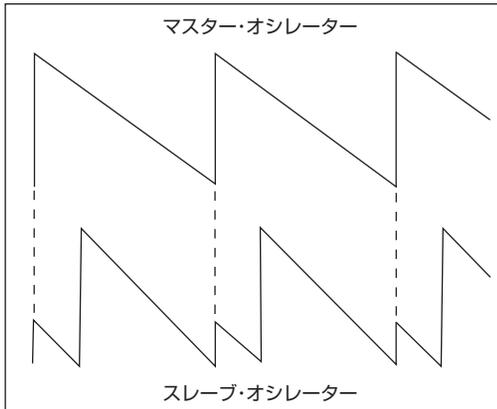
オシレーターの相互作用

DFAMは2つのオシレーターを組み合わせることで新たな音色を作り出すこともできます。そのための便利なツールがハード・シンクとFMで、個別でも両方を同時に使用できます。



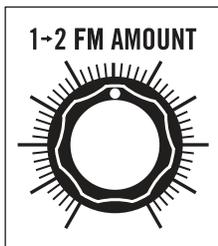
HARD SYNC

「ON」にセットするとハード・シンクがかかり、オシレーター2の位相を強制的にオシレーター1の位相に合わせます。これにより、オシレーター2の波形がより複雑な形になります。音色的にはシャープでメタリックな感じ、フランジャーがかかったようなものになり、ピッチはオシレーター1とピッタリ合った状態になります。



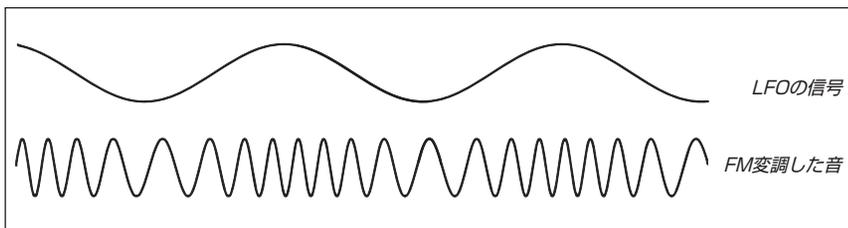
ヒント: (HARD SYNC)スイッチを「ON」にして、(VCO 2 FREQUENCY)ノブを回しながら音を聴いてみましょう。オシレーター1のピッチに強制的に合わせられているためオシレーター2の音程は変わらず、代わりに音色が変化していることが分かります。

注意: (HARD SYNC)スイッチを「ON」にした状態で、オシレーター2のピッチがオシレーター1よりも低い場合、オシレーター2はオシレーター1の位相に合わせることができなくなります。この場合、オシレーター2の音は非常に小さい音になるか、音が出なくなります。特に矩形波の場合、この状態がより顕著になります。



1→2 FM AMOUNT (周波数変調)

FM(周波数変調)の一般的な用途は、ビブラートです。ロー・フリクエンシー・オシレーター(LFO)がオシレーター1のピッチをLFOの周期でスムーズに上下させることでビブラートができます。ですがここでLFOの周期を十分に速くすると、それでもオシレーター1のピッチは上下しますが、そのスピードは極めて速いものになります。そのような場合、オシレーター1の音には含まれていなかった側帯波(サイドバンド)や倍音が生じてきます。



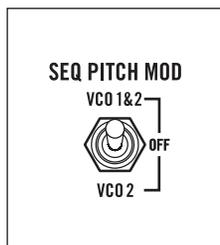
FMによる音色変化は、それぞれのオシレーター1のピッチ設定で大きく変わります。それぞれのピッチ設定次第で複雑な音やスプリングのような音、金属的な音、破壊的な音などになります。

(1→2 FM AMOUNT)ノブを右へゆっくりと回して上げていくと、オシレーター2がオシレーター1でモジュレーションされる量が増えていきます。

ヒント: (1→2 FM AMOUNT)ノブを右へゆっくりと回していき、音色の変化を聴いてみましょう。それから、両方のオシレーター1の(VCO FREQUENCY)ノブを調節しながら、オシレーター1同士の相互作用で音色が変化していく様子を聴いてみましょう。

オシレーター・モジュレーション

オシレーターのピッチを変化させる方法は何種類もありますが、パッチングなしですぐにできるのは次の2種類です：シーケンサーの〔PITCH 1-8〕ノブと、シーケンサーの〔VELOCITY 1-8〕ノブでコントロールできるVCOエンベロープ・ジェネレーターです。



SEQ PITCH MOD

この3ポジション・スイッチで、どのオシレーターをシーケンサーの〔PITCH 1-8〕ノブでコントロール(モジュレーション)するかを選択します。

VCO 1 & 2

シーケンサーの〔PITCH 1-8〕ノブの出力がVCO1と2のピッチにかかります。両方のオシレーターをユニゾン(同じピッチ)にしてベースやリードのフレーズを作る時に便利です。

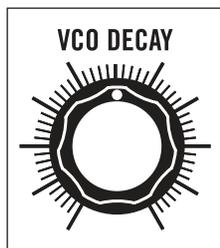
OFF

シーケンサーの〔PITCH 1-8〕ノブの出力がオシレーターにかからず、パッチベイの〔PITCH CV〕アウトプットにのみ出力されます。ドローン音で演奏する場合やハイハットなど音程感のない音色で演奏する場合は、このポジションにセットします。

ヒント:〔SEQ PITCH MOD〕スイッチを「OFF」にセットし、〔PITCH CV〕アウトを色々なCVインプットにパッチングしてシーケンサーの〔PITCH 1-8〕ノブを色々な設定し、シーケンサーをモジュレーション・ソースとして使う実験をしてみましょう。(32ページの「Quick Hats」参照)

VCO 2

シーケンサーの〔PITCH 1-8〕ノブの出力がVCO2のみにかかります。FMやハード・シンクを利用してパーカッション・サウンドに動きのある変化を付ける時に便利です。



VCO DECAY

DFAMIはオシレーターのピッチ・モジュレーション用のエンベロープ・ジェネレーター(EG)を内蔵しています。そのEGのディケイをコントロールするのが〔VCO DECAY〕ノブです。

重要:〔VCO EG AMOUNT〕ノブがセンター位置の場合、〔VCO DECAY〕ノブの設定に関係なくピッチ・モジュレーションはかかりません。このセッティングはシーケンサーでベースラインを演奏する時などに便利です。

7時の位置(最低値)

ディケイ・タイムはほとんど一瞬で、オシレーターのピッチ変化も瞬間的なものになります。音のアタック部分にシャープなインパクトを付けたい場合に効果的です。

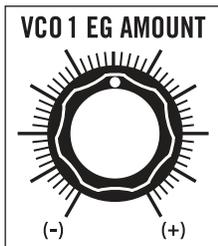
9~10時の位置

スティックやビーターがドラムのヘッドに当たった時のパンチ感を出すのに効果的なセッティングです。ノブの位置が10時に近づくと、音のアタック部分でのピッチ変化がさらに大袈裟な感じになります。

12時以降

センター位置から右側では、ピッチの変化がゆっくりとしたものになりますので、シーケンサーのテンポを遅くした場合に効果的です。

ヒント:シーケンサーの〔VELOCITY 1-8〕ノブはエンベロープ・ジェネレーター(EG)のペロシティ・インプットに接続されていますので、音量とVCO用EGのディケイ・タイムをダイナミックにコントロールしてシーケンスに変化を出したい場合に便利です。



VCO 1 EG AMOUNT / VCO 2 EG AMOUNT

この2つのノブはVCO用エンベロープ・ジェネレーターでVCO1、VCO2それぞれのピッチを変化させる量を調節します。DFAMの「AMOUNT」ノブはすべてバイポーラですので、センター位置の左右でマイナス(-)とプラス(+)があります。

センター位置

エンベロープの効果がオシレーターのパッチにかかりません。

プラス(+)

(VCO EG AMOUNT)ノブをセンター位置から右へ回すと、エンベロープによるオシレーターのパッチ変化がより大きくなります。その結果、発音時にピッチが急激に変化し、ハードヒットな感じのよりアグレッシブで大袈裟なサウンドになる傾向があります。

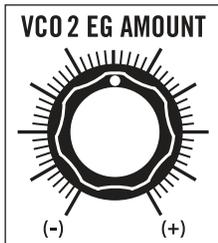
ヒント: (VCO DECAY)ノブでピッチが変化して元のピッチに戻るまでの時間を調節できます。

マイナス(-)

(VCO EG AMOUNT)ノブをセンター位置から左へ回すと、エンベロープが逆相になってオシレーターのパッチを変化させます。この場合、発音時にピッチが急激に下がっていき、ゲームの効果音的なサウンドになります。

ヒント: (VCO DECAY)ノブでピッチが下がって元のピッチに戻るまでの時間を調節できます。

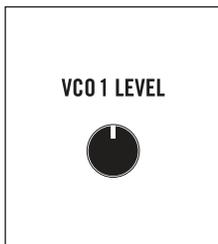
ヒント: (VCO EG AMOUNT)ノブは低めに設定するとより自然なパーカッション・サウンドになり、大きく設定するとより大袈裟で激しいサウンドになります。



MIXER

DFAMのミキサー・セクションは、VCO1とVCO2それぞれの音量レベル調節のほかに、内蔵ホワイト・ノイズ・ジェネレーターのレベル調節もあります。ノイズ・ジェネレーターはスネアやハイハット音色や、パーカッション・サウンドにより深みをプラスする時に便利です。

注意: DFAMはフル・アナログの楽器です。ミキサー・セクションでのレベル設定で全体的なサウンドが左右されます。レベルを低めに設定するとヘッドルームやダイナミクスに余裕が出て、高めのレベルに設定するとより攻撃的で歪っぽいサウンドになります。

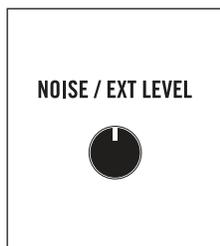


VCO 1 LEVEL

このノブでオシレーター1 (VCO1)の音量レベルを調節します。

注意: 矩形波は三角波と比べて、聴感上音量が大きき聞こえます。これは矩形波のほうが倍音成分が多いため、本機の故障ではありません。

MIXER(続き)

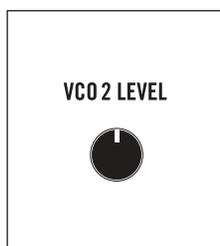


NOISE / EXT LEVEL

このノブでホワイト・ノイズ・ジェネレーターの音量レベルを調節します。ノイズ・ジェネレーターは、パッチベイにある〔NOISE LEVEL CV〕インプット(VCA)でもコントロールすることができます。

パッチベイの〔EXT AUDIO〕インプットに外部音声を接続した場合、そのオーディオ信号の音量レベルもこのノブで調節します。

注意:〔EXT AUDIO〕インプットは3.5mmのTS(モノ)ジャックで、3.5mmのTRS(またはミニステレオ)のプラグでは正しく動作しません。これはこのインプットがユーロロックの信号レベルに合わせたユニティ・ゲインで設計されており、このインプットで有効な信号レベルはピーク間で10Vです。このレベルに満たない信号(例えばMP3プレイヤーからの信号など)は、このインプットに接続する前段階で信号レベルを増幅する必要があります。



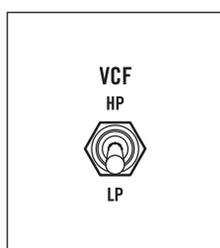
VCO 2 LEVEL

このノブでオシレーター2(VCO2)の音量レベルを調節します。

注意:矩形波は三角波と比べて、聴感上音量が大きく聴こえます。これは矩形波のほうが倍音成分が多いため、本機の故障ではありません。

VCF

DFAMのVCF(ボルテージ・コントロールド・フィルター)はラダー・フィルターで、ローパスとハイパスの2モードがあります。フィルターにはオシレーターなどからの信号から倍音成分をダイナミックに弱めるなどの加工をして、多彩な音色を作り出す役割があります。



VCFスイッチ

このスイッチでローパスまたはハイパス・モードに切り替えます。

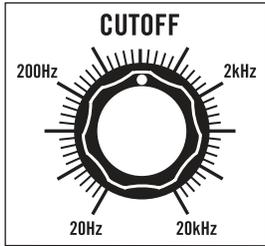
LP(ローパス)

このモードでは、フィルターのカットオフ・フリケンシーよりも高い周波数帯域の倍音成分が弱められ(音量が下がり)、カットオフ・フリケンシーよりも低い周波数帯域の成分はそのまま通過します。分厚く、ダークなサウンドやナチュラルなサウンドに適しています。

HP(ハイパス)

このモードでは、カットオフ・フリケンシーよりも低い周波数帯域の倍音成分などが弱められ(音量が下がり)、カットオフ・フリケンシーよりも高い周波数帯域の成分はそのまま通過します。ブライトで線の細いサウンドなどに適しています。

VCF(続き)



CUTOFF

〔CUTOFF〕ノブでフィルターの効果がかかり始める周波数を調節します。

注意: 4ポール・ラダー・フィルターは24dB/Octの特性です。

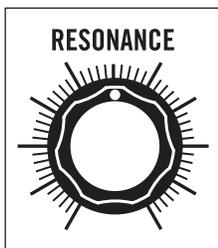
ローパス・モードの場合

〔CUTOFF〕ノブを右へ回していくとカットオフ周波数が上がって倍音の高域成分をより多く通過させるようになり、より明るいサウンドになりつつ、低域成分も残った状態になります。〔CUTOFF〕ノブを左へ回していくと、カットオフ周波数が下がってフィルターが徐々に閉じていき、よりダークなサウンドになります。

ハイパス・モードの場合

〔CUTOFF〕ノブを右へ回していくと、カットオフ周波数以下の成分を弱めながら、それ以上の高域成分を通過させ、明るくてヌケの良いサウンドになります。〔CUTOFF〕ノブを左へ回していくと、フィルターを通過できる倍音成分が低域にも広がり、高域も低域も通過した明るいサウンドになります。

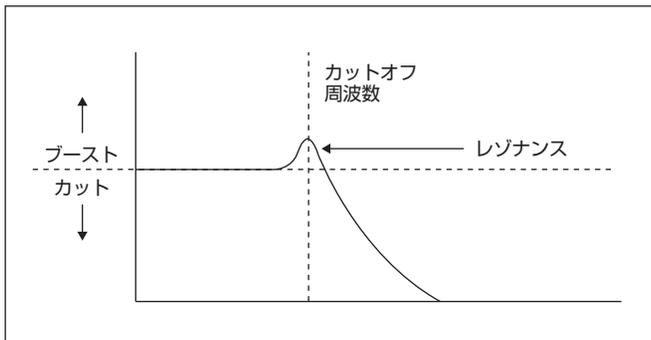
注意: 〔CUTOFF〕ノブの可変幅は20Hz~20kHzで、ほぼ人間の可聴帯域と同じです。フィルターとモジュレーションのセッティングによっては音が出なくなったり感じられる場合があります。そのような場合は、〔CUTOFF〕ノブと〔VCF EG AMOUNT〕ノブをセンター位置にしてみてください。それでも音が出ない場合は、〔VCF〕スイッチを〔LP〕にセットしてください。それでもまだ音が出ない場合は、7ページの「基本セッティング」に戻してください。



RESONANCE

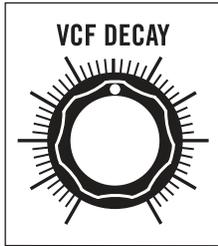
〔RESONANCE〕ノブはフィルターの出力をもう一度フィルターに戻すレベルを調節します。〔RESONANCE〕ノブを右へ回していくと、カットオフ周波数付近の倍音成分が強調され、それ以下の帯域は若干弱められます。

ヒント: 〔RESONANCE〕ノブの向きが時計の3時の位置を超えるとフィルターが自己発振を始めます。この時の発振音はサイン波に近く、これを音源として利用することもできます。(34ページのプリセット「Filter As An Oscillator」参照)



注意: ハイパス・モードの場合、〔RESONANCE〕ノブの特性(スケーリング)はローパス・モードの場合とは異なります。〔RESONANCE〕ノブを最大にし、〔CUTOFF〕ノブを1kHz付近にすると自己発振を始めますが、これは故障ではありません。

VCF(続き)



VCF DECAY

VCF用エンベロープ・ジェネレーターでフィルターのカットオフ・フリケンシーをモジュレーションできます。VCF用EGのディケイ・タイムは〔VCF DECAY〕ノブで調節します。このディケイ・タイムは、シーケンサーの〔VELOCITY 1-8〕ノブでも変化させることができます。シーケンサーのペロシティ出力がEGのペロシティ入力に接続され、これにより振幅とVCF用EGのディケイ・タイムの両方をコントロールします。

重要:〔VCF EG AMOUNT〕ノブがセンター位置の場合、フィルター・モジュレーションは起こりません。この時、〔VCF DECAY〕ノブを回しても何も変化しません。

7時の位置(最低値)

ディケイ・タイムはほとんど一瞬で、フィルター・モジュレーションも瞬間的なものになります。音の鳴り始めの部分にクリック音のようなアタックを付けた場合に効果的です。

10時の位置

音の鳴り始めの部分にシャープなフィルター・モジュレーションを加えられ、幅広いサウンドで効果的なセッティングです。

センター位置

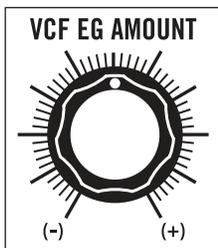
よりナチュラルな感じのフィルター・スウィープになり、キックやタム、その他ナチュラルな鳴りのパーカッション・サウンドに適しています。

センター位置よりも右側

フィルター・モジュレーションがより長くかかり、アグレッシブなサウンドや長く伸びた音に効果的です。

ヒント:〔RESONANCE〕ノブを右へ回すとフィルター・モジュレーションの効果がより顕著になります。フィルターによるワウ効果を強調させたい場合などに便利です。

注意:VCF用EGのディケイ・タイムの可変幅は10ミリ秒~10秒です。また、VCF用EGによる効果のかかり具合は〔VCF EG AMOUNT〕ノブの設定によって変化します。



VCF EG AMOUNT

このノブで、VCF用EGによるフィルター・モジュレーションのかかり具合を調節します。DFAMの〔AMOUNT〕ノブはすべてバイポーラで、プラス(+)とマイナス(-)の領域があります。

センター位置

フィルターのカットオフ・フリケンシーへのモジュレーションはかかりません。

プラス(+)

〔VCF EG AMOUNT〕ノブをセンター位置から右へ回していくと、VCF用EGによるフィルター・モジュレーションが徐々に深くかかっていきます。プラスの場合、〔VCF〕スイッチの設定に関係なくカットオフ・フリケンシーが上がる方向に変化します。

プラス側に設定した場合、発音時に音色がより明るく変化し、ダイナミックでアグレッシブな感じのサウンドになります。

ヒント:〔VCF DECAY〕ノブでフィルター・モジュレーションにかかる時間を調節します。

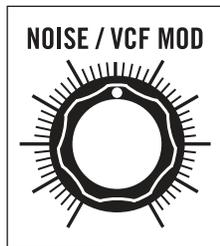
VCF EG AMOUNT (続き)

マイナス(-)

(VCF EG AMOUNT)ノブをセンター位置から左へ回していくと、VCF用EGによるフィルター・モジュレーションが逆相でかかります。この場合、(VCF)スイッチの設定に関係なくフィルターのカットオフ・フリケンシーが下がる方向に変化します。

マイナスに設定した場合、発音時にフィルターが閉じて音色が暗くなる方向に変化して、ややゲーム的なサウンドになります。

ヒント: (VCF DECAY)ノブでフィルター・モジュレーションにかかる時間を調節します。



NOISE / VCF MOD

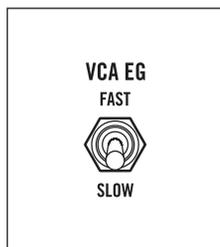
フィルターのカットオフ・フリケンシーは、ノイズ・ジェネレーターでもモジュレーションをかけることができます。この場合、ダーティで歪んだようなサウンドや、ローファイなサウンドになります。また、シンバルのシズル感を出すのにも効果的です。(NOISE / VCF MOD)ノブを右へ回していくと、ノイズ・ジェネレーターによるフィルター・モジュレーションの変化量が大きくなっていきます。

パッチベイの(VCF MOD)インプットに信号を接続すると、その信号でフィルターのカットオフ・フリケンシーをコントロールできます。パッチングをすることでノイズ・ジェネレーターとカットオフ・フリケンシーとの内部接続が遮断され、(NOISE / VCF MOD)ノブでパッチングした信号によるフィルター・モジュレーションの深さを調節できます。

ヒント: (VCO2)アウトプットと(VCF MOD)インプットをパッチングしてみましょう。(NOISE / VCF MOD)ノブは最大にします。この状態でVCO2でフィルターをモジュレーションしているようすを聴いてみましょう。(33ページのプリセット「FM Toys」参照)

VCA

VCA(ボルテージ・コントロールド・アンプリファイア)は、DFAMの音量をコントロールします。DFAMの出力レベルはVCA用エンベロープ・ジェネレーターとシーケンサーの(VELOCITY 1-8)ノブの設定で決まります。VCA用EGではディケイ・タイムのほかに、2段階でスピード切り替えができるアタック・タイムもあります。



VCA EG

このスイッチでVCA用EGのアタック・タイムを切り替えます。

FAST

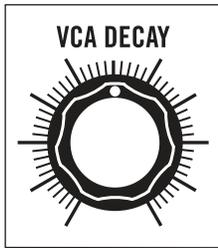
このポジションにセットすると、VCA用EGのアタック・タイムは1ミリ秒に設定されます。ハイハットやキックなど、発音と同時に鋭く音が立ち上がるタイプのサウンドに適しています。

注意: 1ミリ秒はVCOやVCF用EGのアタック・タイムと同じ設定です。

SLOW

このポジションでは、VCA用EGのアタック・タイムは100ミリ秒に設定されます。音の立ち上がりソフトなサウンド、例えばマリンバやブラシを使ったスネア、ドラなどのサウンドを作る場合に効果的です。

ヒント: ベース音色でシーケンスを作る場合、「SLOW」にセットするとグライド効果に近い感じになります。(33ページのプリセット「Sequenced Bass」参照)



VCA DECAY

DFAMの3つ目のエンベロープ・ジェネレーターがVCA用EGで、VCAからの出力レベルをコントロールします。ディケイ・タイムは**(VCA DECAY)**ノブで調節します。このディケイ・タイムは、シーケンサーの**(VELOCITY 1-8)**ノブでコントロールすることもできます。シーケンサーのペロシティ出力がVCA用EGのペロシティ入力に接続され、これによりVCAの出力とVCA用EGのディケイ・タイム両方をコントロールします。

7時の位置(最低値)

ディケイ・タイムはほぼ一瞬で、瞬時に音が切れて終わります。タイトなハイハットなど、シャープなアタックで短く切れるタイプのサウンドに効果的です。

9時の位置

一瞬で音が切れて終わることはありませんが、まだ短い音です。クラブや共鳴胴の小さなパーカッション・サウンドを作る場合に適しています。

10時の位置

やや長めの音ですがそれでもタイトなパーカッションとして使える設定です。何かを強く叩いた音やマリimbaなどチューンド・パーカッションの音作りに適しています。

11時の位置

やや長めの音で音程感を聴き取りやすい長さになりつつも、パーカッション的な雰囲気も残ります。速いテンポのシーケンスにも使えます。

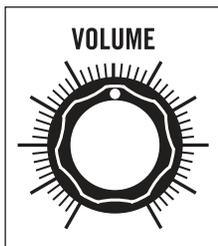
センター位置

十分な長さでより音楽的なサウンドになります。スネアなどのように、低域と高域成分の両方があるサウンドに適しています。

センター位置よりも右側

より長い音になりドローン・サウンドのような感じになります。長く鳴り続けるタイプの音でフィルターでアーティキュレーションやダイナミクスを付けるようなサウンドで効果的です。

*ヒント: パッチベイの**(PITCH CV)**アウトプットを**(VCA DECAY)**インプットに接続して、シーケンサーの**(PITCH 1-8)**ノブでステップごとの音の長さをコントロールする方法もあります。(32ページのプリセット「Quick Hats」参照)*

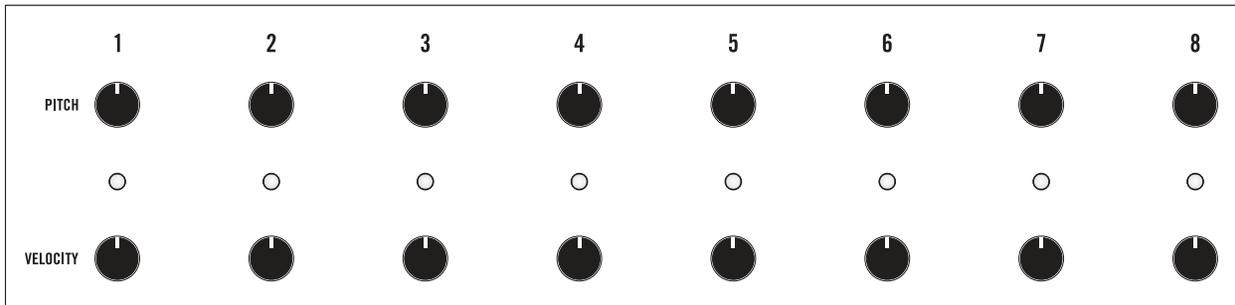


VOLUME

(VOLUME)ノブでヘッドフォンの音量や、本機全体の出力レベルを調節します。

アナログ8ステップ・シーケンサー

DFAMはアナログ式の8ステップ・シーケンサーを搭載し、2列のノブを装備しています。片方は〔PITCH〕ノブで、もう片方は〔VELOCITY〕ノブです。この2種類を活用してダイナミックで表現力のあるパーカッション・パターンを作成できます。



ステップ・コントロール

シーケンサーの各ステップ(1~8)にはそれぞれ〔PITCH〕ノブと〔VELOCITY〕ノブがあり、LEDが点灯しているステップがその時に発音しているステップです。

注意:シーケンサーでDFAMのオシレーターのパitchをコントロールする場合は、〔SEQ PITCH MOD〕スイッチを「VCO 1&2」または「VCO 2」にセットする必要があります。

PITCH

〔PITCH〕ノブは、〔VCO FREQUENCY〕ノブの設定に対するオフセット値を設定するもので、センター位置を境に右側がプラス、左側がマイナスです。つまり、〔PITCH〕ノブをセンター位置から右側に回すと〔VCO FREQUENCY〕ノブの設定よりも高いpitchで発音し、センター位置よりも左側に回すと低いpitchで発音します。

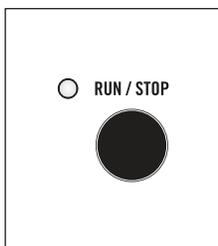
注意:〔PITCH 1-8〕ノブの可変幅は約10オクターブ(±5V)です。ここでの各ノブの設定はCVとしてパッチベイの〔PITCH CV〕アウトから出力することもできます。

VELOCITY

〔VELOCITY〕ノブ各ステップを演奏した時のベロシティ・レベルを設定するのに使用します。ベロシティの値は3つのエンベロープ・ジェネレーター(VCO EG、VCF EG、VCA EG)すべてのベロシティ・インプットに接続され、各EGの振幅をコントロールします。ベロシティ値が低い場合はソフトなサウンド、高めればラウドでハードヒットなサウンドになります。また、〔VELOCITY 1-8〕ノブが最低値(左いっぱい)に回した状態の場合、そのステップを演奏している間は音が出ません。

ヒント:各ステップのベロシティ値を色々に設定して、ノリの良いパターンを作ってみましょう。ベロシティ値を高くするとEGのディケイ・タイムが若干長めになることがあります。また、ベロシティ値が低すぎると音が聴こえない場合もあります。

注意:〔VELOCITY 1-8〕ノブのCV出力範囲は0~5Vで、パッチベイの〔VELOCITY〕アウトから出力させることもできます。

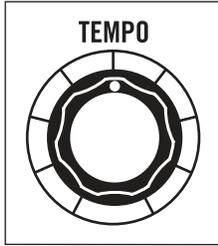


RUN / STOP

〔RUN/STOP〕ボタンを押すとシーケンサーが停止していたステップ(LEDが赤く点灯します)から、その時に設定されていたテンポで演奏を始めます。シーケンサーの演奏中に〔RUN/STOP〕ボタンを押すと演奏が停止します。

注意:〔RUN/STOP〕ボタンの左上にあるLED(赤)はシーケンサーの演奏時に点灯し、停止時は消灯します。

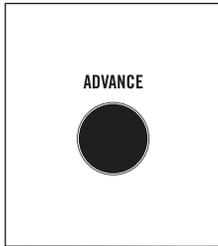
アナログ8ステップ・シーケンサー (続き)



TEMPO

〔TEMPO〕ノブでシーケンサーの演奏スピード(テンポ)を設定します。可変幅は0.7Hz~700Hzで、シーケンサーの1ステップを16分音符とした場合、テンポの可変幅は10BPM~10,000BPMになります。

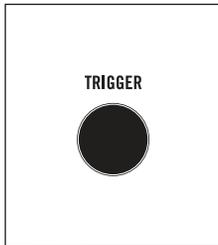
ヒント: パッチベイで〔PITCH CV〕または〔VELOCITY CV〕アウトを〔TEMPO CV〕インに接続してみましょう。シーケンサーの〔PITCH 1-8〕ノブ、または〔VELOCITY 1-8〕ノブで各ステップを演奏する長さを設定できます。コントロール方法としてはややリッキーなものですが根気よくトライしてみてください。(35ページのプリセット「Swing Time」参照)



ADVANCE

シーケンサーの停止時に〔ADVANCE〕ボタンを押すと、停止したステップの次のステップに発音させずに頭出しすることができます。

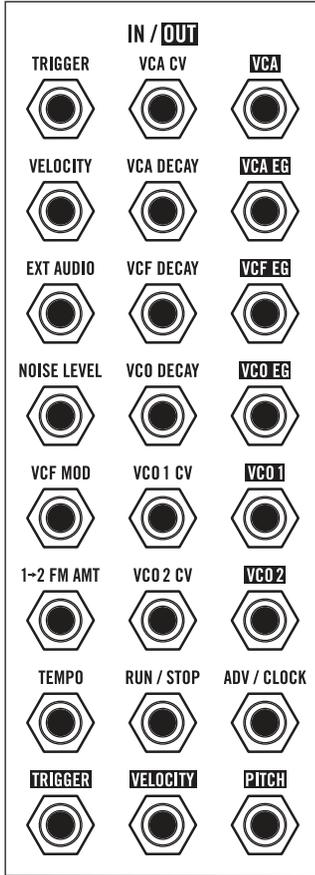
注意: パッチベイの〔ADV/CLOCK〕インに外部クロックを入力できます。これを利用してシーケンサーのステップを次に送ることもできます。例えばMother-32を外部クロックソースにして、任意のタイミングやリズムカルなパターンでシーケンサーをコントロールすることもできます。



TRIGGER

シーケンサーの停止時に〔TRIGGER〕ボタンを押すと、停止中のステップ(LEDが点灯)を発音させます。この時、次のステップには進みません。そのためこのボタンを何回も押してそのステップだけを発音できますので、各ステップの音色を設定する際に便利です。

パッチベイ



パッチベイ

DFAMは3.5mmジャックの24回路パッチベイを装備し、より多彩な音作りやモジュラー・シンセとの接続に利用できます。白文字でプリントされているのがインプット(15個)で、白ベタに黒文字でプリントされているのがアウトプット(9個)です。

このパッチベイは3.5mmパッチケーブル専用です。DFAMには5本のパッチケーブルを付属していますが、それ以上必要な場合はMoogパッチケーブル(別売: 6インチ(約15cm)と12インチ(約30cm)の2タイプがあります)をお求めください。

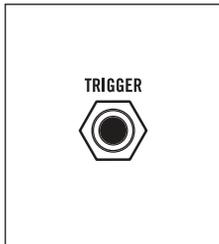
注意: パッチングの際、アウトプットからの信号をY字ケーブルやスタックブルプラグ仕様のパッチケーブルで分岐することは可能ですが、インプットに接続する場合はCVの入力超過を防ぐために必ず1つのアウトからの信号を接続してください。

インプット

TRIGGER、VCA CV、VELOCITY、VCA DECAY、EXT AUDIO、VCF DECAY、NOISE LEVEL、VCO DECAY、VCF MOD、VCO 1 CV、1→2 FM AMT、VCO 2 CV、TEMPO、RUN / STOP、ADV / CLOCK

アウトプット

VCA、VCA EG、VCF EG、VCO EG、VCO 1、VCO 2、TRIGGER、VELOCITY、PITCH



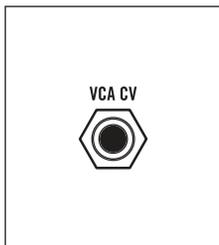
TRIGGER(トリガー・インプット)

このインプットで信号を受けるとDFAMの3つのエンベロープ・ジェネレーターすべてがトリガーし、その時に選択されていたシーケンサーのステップのベロシティ値で発音します。この時、シーケンサーの次のステップには進みません。外部シーケンサーを接続する場合などに便利です。

インプット

0~+5Vパルスまたはゲート信号(耐入力: +10V)

注意: (TRIGGER)インプットはシーケンサーのクロック信号と内部設されており、そこから3つのエンベロープ・ジェネレーター、さらに(TRIGGER)アウトプットに接続されています。



VCA CV(VCAコントロール用CVインプット)

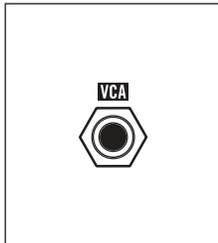
DFAMの出力VCAをコントロールする際に使用します。これにより、DFAM全体の音量をコントロールできます。

インプット

0~+8V CV

注意: このインプットに入ったCVは、DFAM内部のVCA EGからのCVに加算されますので、予期せぬVCAのクリップ(あるいは想定通りのVCAクリップ)が起こることがあります。

パッチベイ (続き)

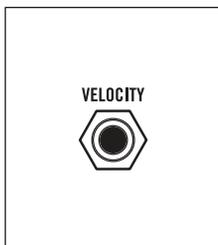


VCA (オーディオ出力)

DFAMのVCAからのオーディオ出力です。音量は**{VOLUME}**ノブで調節します。

アウトプット

-5V~+5Vオーディオ信号(ユーロロック・レベル)



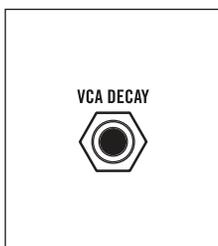
VELOCITY (ベロシティ・コントロール用CVインプット)

DFAMの3つのエンベロープ・ジェネレーターの最大振幅をコントロールします。ダイナミックなパターンなどを演奏するのに便利な機能の1つです。

インプット

0V~+5V CV

注意: **{VELOCITY}**インプットはシーケンサーの**{VELOCITY 1-8}**ノブと内部接続されています。



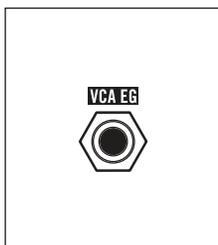
VCA DECAY (VCAディケイ・コントロール用CVインプット)

VCA用EGのディケイ・タイムをコントロールします。ハイハット音色などピッチ感のないパーカッションのパターンに変化を付ける場合などに便利です。

インプット

-5V~+5V CV

注意: **{VCA DECAY}**インプットからのCVは**{VCA DECAY}**ノブの設定に加算されますので、このノブをセンター位置にしておく
と外部CVでのコントロール幅が最大になります。



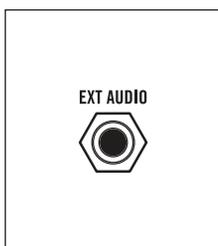
VCA EG (VCA用EG CVアウトプット)

VCA用EGからのCVをそのまま出力します。

アウトプット

0V~+8V CV

注意: VCA用EGのCVはシーケンサーの**{VELOCITY 1-8}**ノブ、**{VCA DECAY}**ノブ、**{VCA EG SLOW/FAST}**スイッチの
各種設定により変化します。



EXT AUDIO (外部オーディオ・インプット)

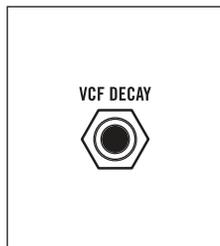
このインプットに外部オーディオ・ソースを接続すると、ノイズ・ジェネレーターとの内部接続が遮断され、ホワイト・ノイズの代わりに外部オーディオを使用できます。外部オーディオの音量はミキサー・セクションの**{NOISE/EXT LEVEL}**ノブで調節できます。

インプット

10V(ピーク間)オーディオ信号

注意: このインプットはユーロロックの信号レベルに合わせてユニティ・ゲインで設計されていますので、外部オーディオの信号レベルを
ピーク間で10Vにする必要があります。それよりも低いレベルのオーディオ信号(例えばMP3プレイヤーなど)を接続する場合は、事前
に増幅させる必要がある場合があります。

パッチベイ (続き)



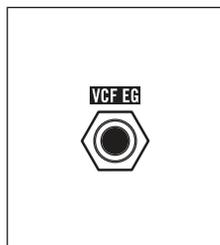
VCF DECAY (VCFディケイ・コントロール用CVインプット)

VCF用EGのディケイ・タイムをコントロールします。多彩な音色バリエーションで複雑なサウンド作りに便利です。

インプット

-5~+5V CV

注意: このインプットからのCVは[VCF DECAY]ノブの設定に加算されます。[VCF DECAY]ノブをセンター位置にしておくことと外部CVによるコントロール幅が最大になります。



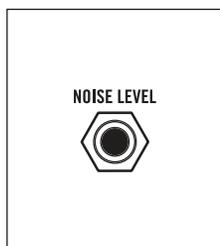
VCF EG (VCF用EG CVアウトプット)

VCF用EGからのCVをそのまま出力します。

アウトプット

0V~+8V CV

注意: VCF用EGのCVは、シーケンサーの[VELOCITY 1-8]ノブと[VCF DECAY]ノブの設定により変化します。



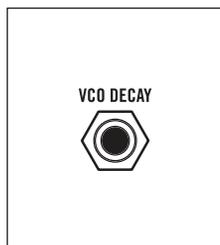
NOISE LEVEL (ノイズ・レベル・コントロール用CVインプット)

このインプットでミキサー・セクションの[NOISE/EXT LEVEL]ノブの値をコントロールします。[EXT AUDIO]インプットに外部オーディオが接続されている場合は外部オーディオのレベルをコントロールします。

インプット

0~+8V CV

注意: このインプットからのCVは[NOISE/EXT LEVEL]ノブの設定に加算されます。そのため、設定によってはノイズ・レベルVCAが予期せぬクリップ(または想定通りのクリップ)を起こすことがあります。



VCO DECAY (VCOディケイ・コントロール用CVインプット)

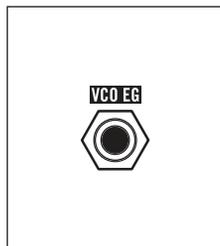
VCO用EGのディケイ・タイムをコントロールします。チューンド・パーカッションのサウンドなどでのピッチ変化をさらにダイナミックなものにする際に便利です。

インプット

-5V~+5V CV

注意: このインプットからのCVは[VCO DECAY]ノブの設定と加算されます。[VCO DECAY]ノブをセンター位置にしておくことと外部CVでのコントロール幅が最大になります。

パッチベイ (続き)



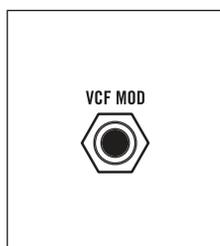
VCO EG (VCO用EG CVアウトプット)

VCO用EGからのCVをそのまま出力します。

アウトプット

0V~+8V CV

注意: VCO用EGのCVは、シーケンサーの〔**VELOCITY 1-8**〕ノブと〔**VCO DECA Y**〕ノブの設定により変化します。



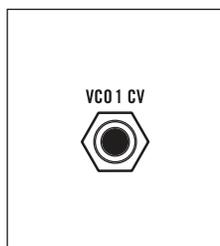
VCF MOD (VCFモジュレーションCVインプット)

このインプットにCVを接続すると、ノイズ・ジェネレーターとの内部接続が遮断され、CVでVCFをコントロールできます。なお、上限レベルのCVを入力しても〔**NOISE/VCF MOD**〕ノブでのコントロールが可能です。

インプット

-5V~+5V CV

注意: このインプットにCVを接続すると、VCFのカットオフ・フリケンシーをコントロールするソースがCVに切り替わります。CVでVCFを最大限にコントロールする場合は、〔**NOISE/VCF MOD**〕ノブを最大値(左いっぱい)に回した状態)にします。



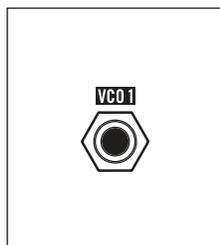
VCO 1 CV (VCO1コントロール用CVインプット)

このインプットにCVを接続すると、VCO1のピッチを1V/Octでコントロールできます。このインプットに入ったCVは〔**VCO 1 FREQUENCY**〕ノブ、〔**VCO 1 EG AMOUNT**〕ノブ、シーケンサーの〔**PITCH 1-8**〕ノブ(〔**SEQ PITCH MOD**〕スイッチを〔**VCO 1 & 2**〕にセットした場合のみ)の各種設定に加算されます。

インプット

-5V~+5V CV

注意: VCO1のピッチを正確に1V/Octでコントロールする場合は、〔**VCO 1 FREQUENCY**〕ノブ、〔**VCO 1 EG AMOUNT**〕ノブをセンター位置にし、〔**SEQ PITCH MOD**〕スイッチを〔**OFF**〕または〔**VCO 2**〕にセットします。



VCO 1 (VCO1シグナル・アウトプット)

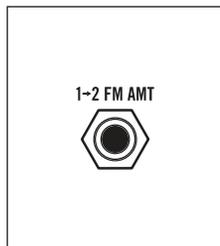
VCO1の信号をそのまま出力します。オーディオ信号としてもモジュレーション信号としても利用できます。

アウトプット

-5V~+5V(ピーク間10V)

注意: VCO1の出力は〔**VCO 1 FREQUENCY**〕ノブ、〔**VCO 1 WAVE**〕スイッチ、〔**VCO 1 EG AMOUNT**〕ノブ、シーケンサーの〔**PITCH 1-8**〕ノブ(〔**SEQ PITCH MOD**〕スイッチを〔**VCO 1 & 2**〕にセットした場合のみ)の各種設定で変化します。

パッチベイ (続き)



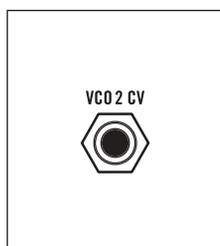
1→2 FM AMT (VCO1→VCO2 FM変調量インプット)

このインプットにCVを接続して、〔1→2 FM AMOUNT〕ノブをコントロールします。このノブは、VCO1でVCO2を変調するFM(周波数変調：リニアFM)の変調量を調節するものです。

インプット

0V～+8V CV

注意：このインプットに接続されるCVは、〔1→2 FM AMOUNT〕ノブの設定値と加算されます。



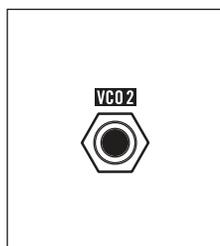
VCO 2 CV (VCO2用CVインプット)

このインプットにCVを接続して、VCO2のピッチを1V/Octでコントロールできます。このインプットに接続されたCVは、〔VCO 2 FREQUENCY〕ノブ、〔VCO 2 EG AMOUNT〕ノブ、シーケンサーの〔PITCH 1-8〕ノブ(〔SEQ PITCH MOD〕スイッチを「VCO 1&2」または「VCO 2」にセットした場合のみ)の各種設定と加算されます。

インプット

-5V～+5V CV

注意：VCO2のピッチを正確に1V/Octでコントロールしたい場合は、〔VCO 2 FREQUENCY〕ノブ、〔VCO 2 EG AMOUNT〕ノブをセンター位置にし、〔SEQ PITCH MOD〕スイッチを「OFF」にセットします。



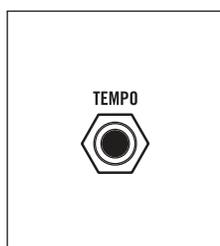
VCO 2 (VCO2シグナル・アウトプット)

VCO2の信号をそのまま出力します。オーディオ信号としてもモジュレーション信号としても利用できます。

アウトプット

-5V～+5V(ピーク間10V)

注意：VCO2の出力は〔VCO 2 FREQUENCY〕ノブ、〔VCO 2 WAVE〕スイッチ、〔VCO 2 EG AMOUNT〕ノブ、シーケンサーの〔PITCH 1-8〕ノブ(〔SEQ PITCH MOD〕スイッチを「VCO 1&2」または「VCO 2」にセットした場合のみ)の各種設定で変化します。



TEMPO (クロックVCO CVインプット)

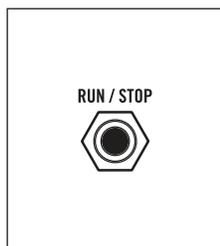
このインプットにCVを接続して、シーケンサーのクロックVCOを1V/Octでコントロールします。これにより外部CVソースでシーケンサーを可聴帯域に入るほどの高速テンポで使用することもできます。

インプット

-5V～+5V CV

注意：このインプットに接続されたCVは、〔TEMPO〕ノブの設定値と加算されます。

パッチベイ (続き)



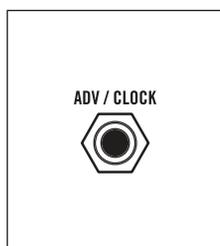
RUN / STOP (ゲート・インプット)

このインプットにゲート信号を接続してシーケンサーのスタート/ストップをコントロールします。+5Vの信号が入っている間だけシーケンサーは停止していたステップからスタートします。0Vの信号が入った時点でシーケンサーが停止します。

インプット

0V~+5V ゲート信号 (耐入力: +10V)

注意: 外部クロック信号をこのインプットに接続して、クロック信号のスピードでシーケンサーのステップを1つずつ先に進める (**RUN/STOP**) ボタンを高速で何度も押すのと同じこととなります) ことができますが、DFAMの内部クロックとは同期しません。



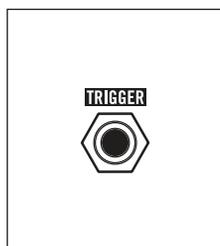
ADV / CLOCK (シーケンサー・ステップ・アドバンス/クロック・インプット)

このインプットは、DFAMを別の機器 (Mother-32や複数台のDFAMを使用する場合など) からのクロック信号を受けて同期させる時に使用します。接続したクロック信号の立ち上がりエッジが入ると、シーケンサーのステップが1つ進みます。この場合、**TEMPO** ノブの設定は無効になります。

インプット

0V~+5V クロック信号 (耐入力: +10V)

注意: 電圧変化がゆっくりとした信号 (立ち上がり/下がりエッジが不明確な信号) は無視されます。例えばMother-32のアサインナブル・アウトプットにアクセントをアサインした場合の出力信号などがそれです。

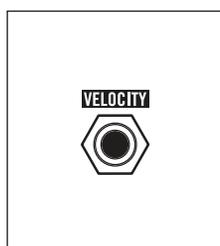


TRIGGER (トリガー・アウトプット)

このアウトプットからは、シーケンサー・クロックから変換 (分割) したクロック信号を出力し、他の機器を同期させることができるほか、シンプルなトリガー出力としても使用できます。シーケンサーで各ステップを演奏するたびに、+5Vのトリガー信号がDFAMのエンベロープ・ジェネレーターと、この (**TRIGGER**) アウトプットに出力されます。

アウトプット

0V~+5V パルス (パルス幅: 約1ms)

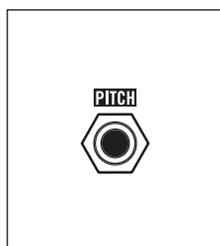


VELOCITY (シーケンサー・ベロシティ・コントロールCVアウトプット)

シーケンサーの各ステップの (**VELOCITY**) ノブの設定値をCVとして出力します。

アウトプット

0V~+5V CV



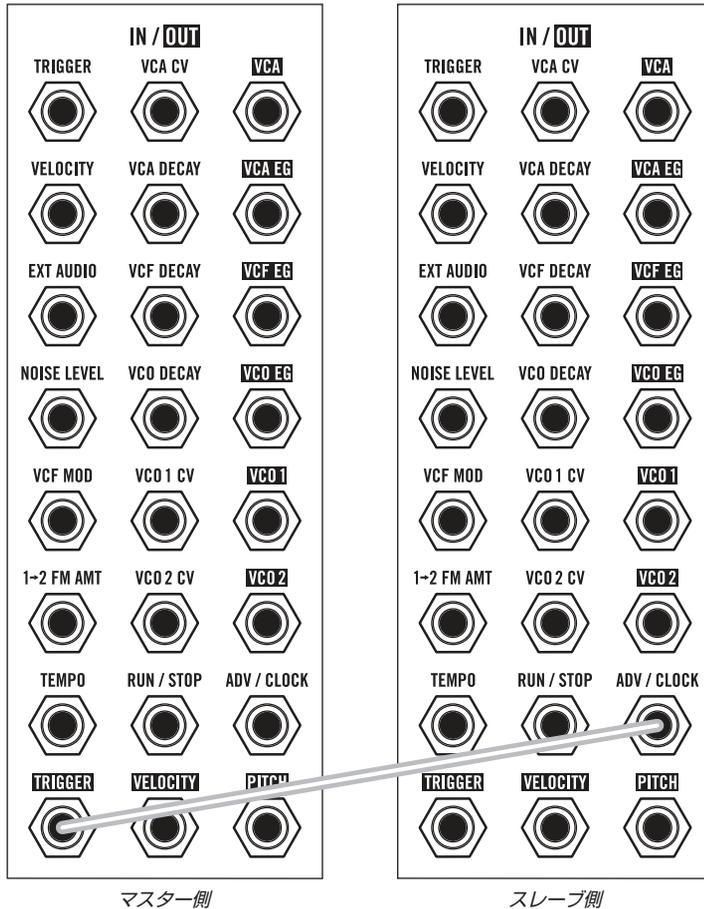
PITCH (シーケンサー・ピッチ・コントロールCVアウトプット)

シーケンサーの各ステップの (**PITCH**) ノブの設定値をCVとして出力します。

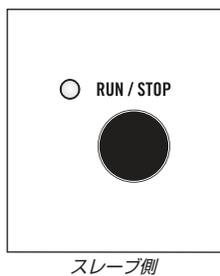
アウトプット

-5V~+5V CV

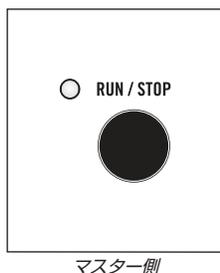
複数台のDFAMを同期させる



複数台のDFAMを同期演奏させるには、マスターとなるDFAMのパッチベイの〔TRIGGER〕アウトプットをスレーブとなるDFAMの〔ADV/CLOCK〕インプットにパッチングするだけで完了です。

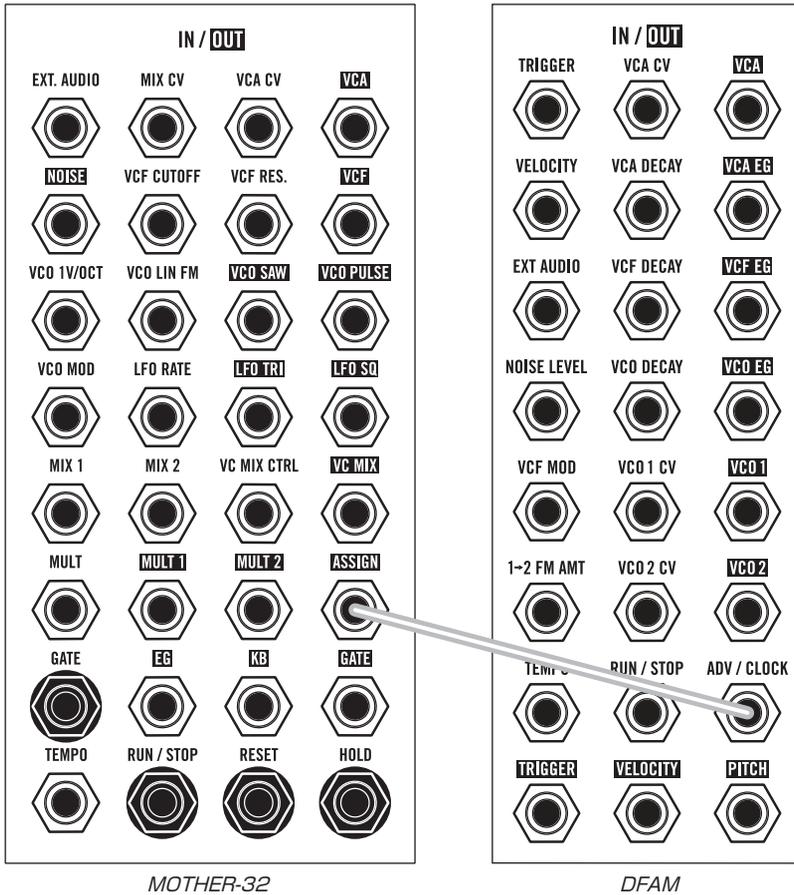


スレーブ側の〔RUN/STOP〕ボタンを最初に押します。こうすることでマスター側からクロック信号が入った時点でスレーブ側のシーケンサーがスタートできます。



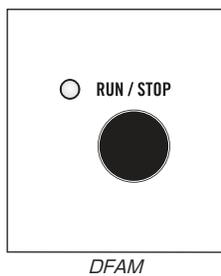
マスター側の〔RUN/STOP〕ボタンを押します。これで2台のDFAMが同期演奏します。

DFAMをMOTHER-32に同期演奏させる

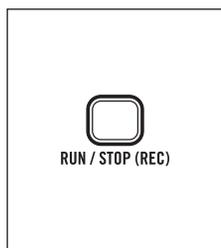


DFAMをスレーブ、Mother-32をマスターにして同期演奏させるには、Mother-32のパッチベイの〔ASSIGN〕アウトプットとDFAMの〔ADV/CLOCK〕インプットをパッチングします。

重要： Mother-32のアサインブルアウトプットから出力される信号をクロックに設定します。Mother-32のアサインブルアウトプットの詳細につきましては、Mother-32ユーザーズ・マニュアルの43、48、49ページをそれぞれご参照ください。



DFAMの〔RUN/STOP〕ボタンを押します。これでMother-32からのクロック信号が入った時点でシーケンサーがスタートします。



Mother-32の〔RUN/STOP〕ボタンを押します。これでMother-32とDFAMが同期演奏します。

ヒント： Mother-32はクロック分割機能の設定で色々な間隔のクロックを出力できます。この設定を色々な切り替えてDFAMがどのように同期演奏するかを実験してみましょう。

DFAMをユーロラック・モジュールとして使う

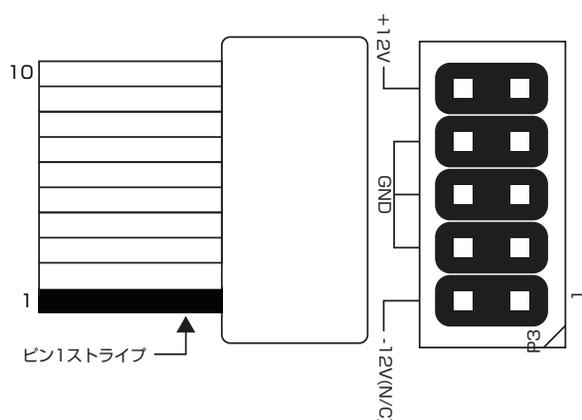
DFAMは外装ケースを取り外して60HPのユーロラック・モジュールとしてラックケースにインストールすることができます。その際の重要なポイントですが、DFAMは+12V電源のみを使用して最大消費電流は230mAです。-12V電源は使用しません。

ラックケースの+12V電源がDFAMを使用しても十分な余裕があるかどうかを必ずチェックしてください。事前にお使いのラックケースの+12V電源の容量と、現在お使いのシステムの+12V電源の合計消費電流をチェックしてください。現在お使いのシステムの+12V電源の合計消費電流がラックケースの+12V電源の容量を超えていないはずですが、電源容量に余裕を残すようにして、電源モジュールにかかる負荷を軽減することをお勧めします。

Moog Music社および輸入代理店は、DFAMをユーロラック・モジュールとして使用した場合の故障等に関する保証はいたしませんので十分にご注意ください。

ユーロラック・ケースへのインストール方法

1. 外部電源を本体から取り外します。
2. フロントパネル上のM3ネジ(黒、8個)を取り外し、保管しておきます。
3. パネル面をゆっくりと引き上げます。するとフロントパネルにつながっている2本のケーブルが見えます。
4. 2本のケーブルをフロントパネルから取り外します。これでモジュールがケースから分離されます。



5. DFAMモジュールの背面が見えるようにします。基板の背面にユーロラック・パワーリボンに対応した10ピン電源ヘッダがあります。
6. ユーロラックのパワーリボンのピン1とDFAMの10ピン電源ヘッダのピン1が合うように接続します。ピン1は色分け(通常は赤)されており、識別できるようになっています。

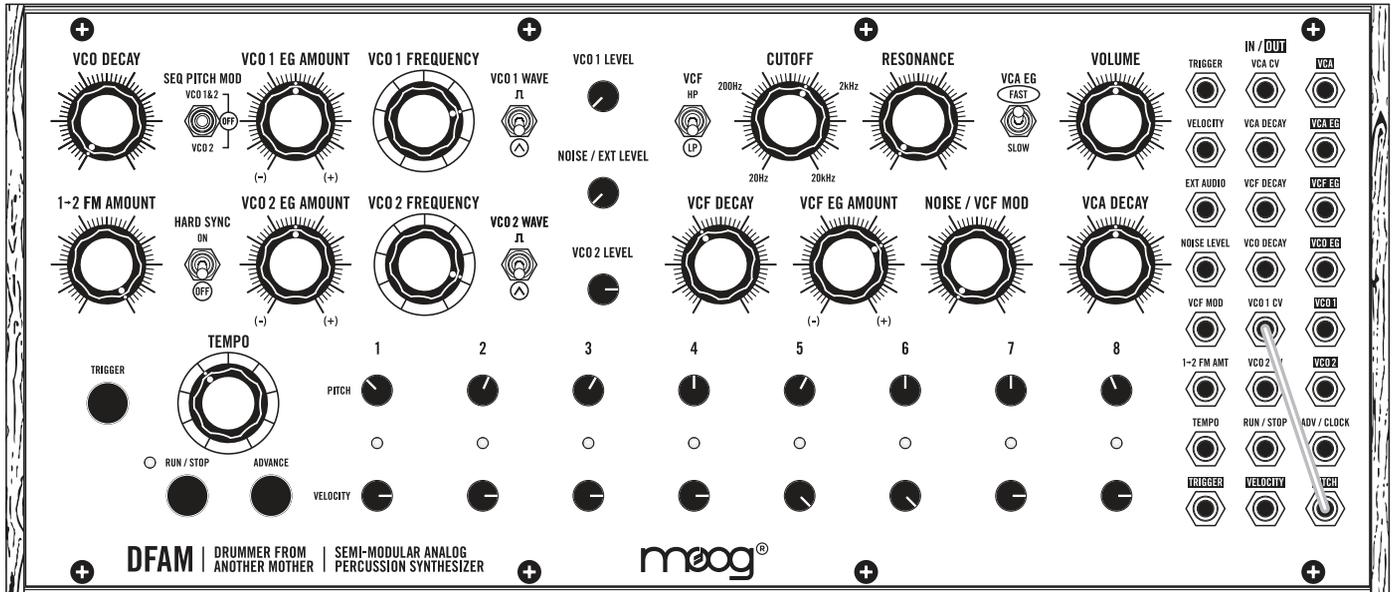
7. 接続が済みましたら、先ほど取り外したネジでDFAMをラックケースにインストールにします。
8. インストールが終わりましたら、ユーロラックの電源を入れます。

プリセット&パッチ・シート

DFAMは100%アナログです。そのため、パーツ等の個体差により1台1台の音がごくわずかに異なることがあります。つまり、2台のDFAMをまったく同じセッティングにしても、音がごくわずかに異なる場合がありますが、これは故障ではありません。

注意：Moogウェブサイト(www.moogmusic.com)から本マニュアル以外のプリセットやパッチ・シートのプランクもダウンロードできます。

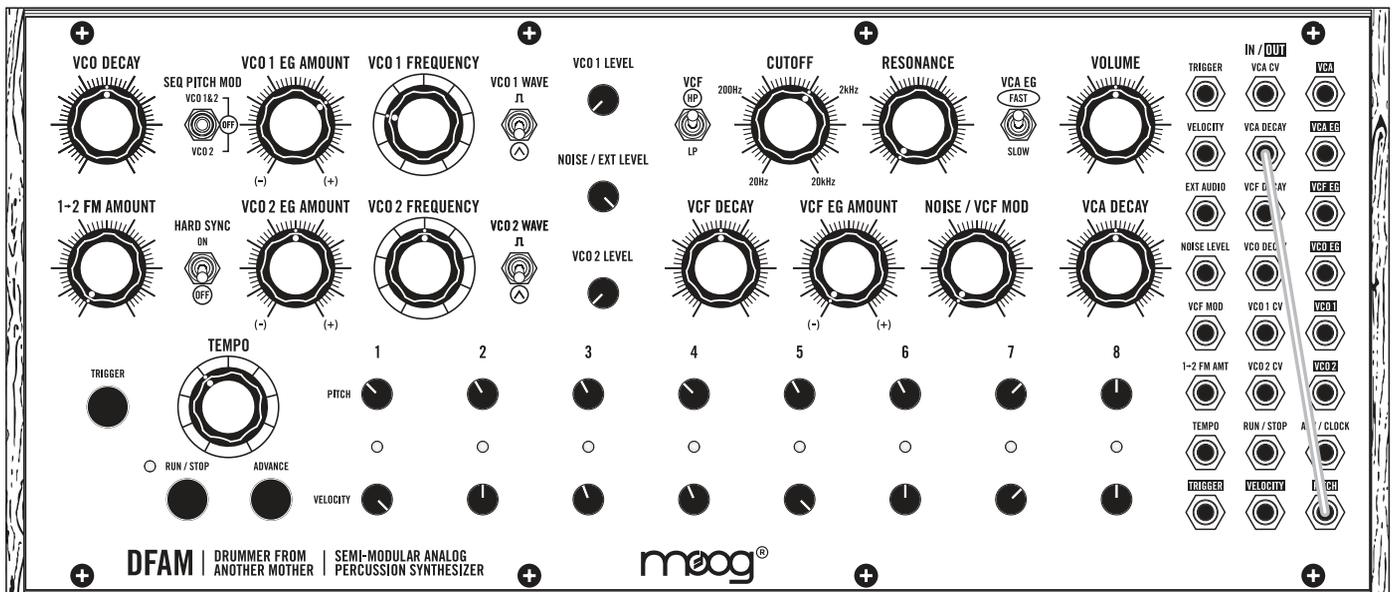
MUSIC BOX



ポイント

- シーケンサーの(PITCH 1-8)ノブでVCO1のピッチを設定します。
- シーケンサーでピッチをわずかに動かすだけでも音色が大きく変化します。
- (VCO 2 FREQUENCY)ノブを色々な設定にして音の変化を聴いてみましょう。

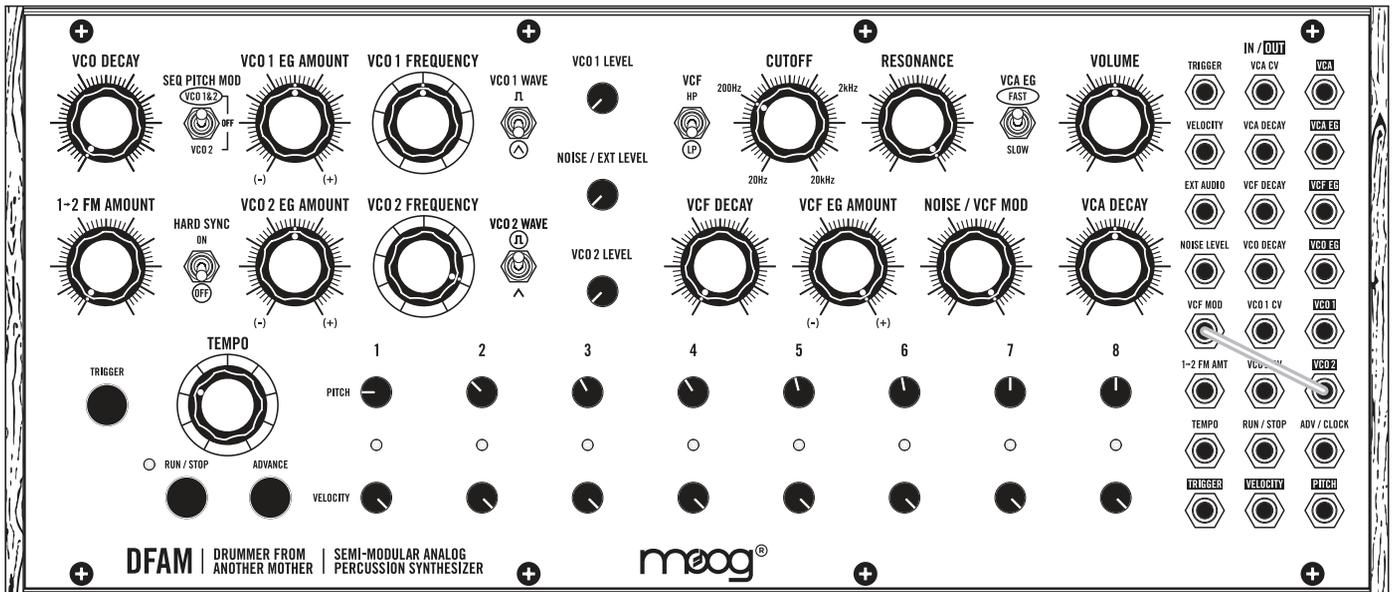
QUICK HATS



ポイント

- シーケンサーの(PITCH 1-8)ノブでステップごとのタイトさを設定します。
- シーケンサーの(VELOCITY 1-8)ノブを色々な設定して実験してみましょう。

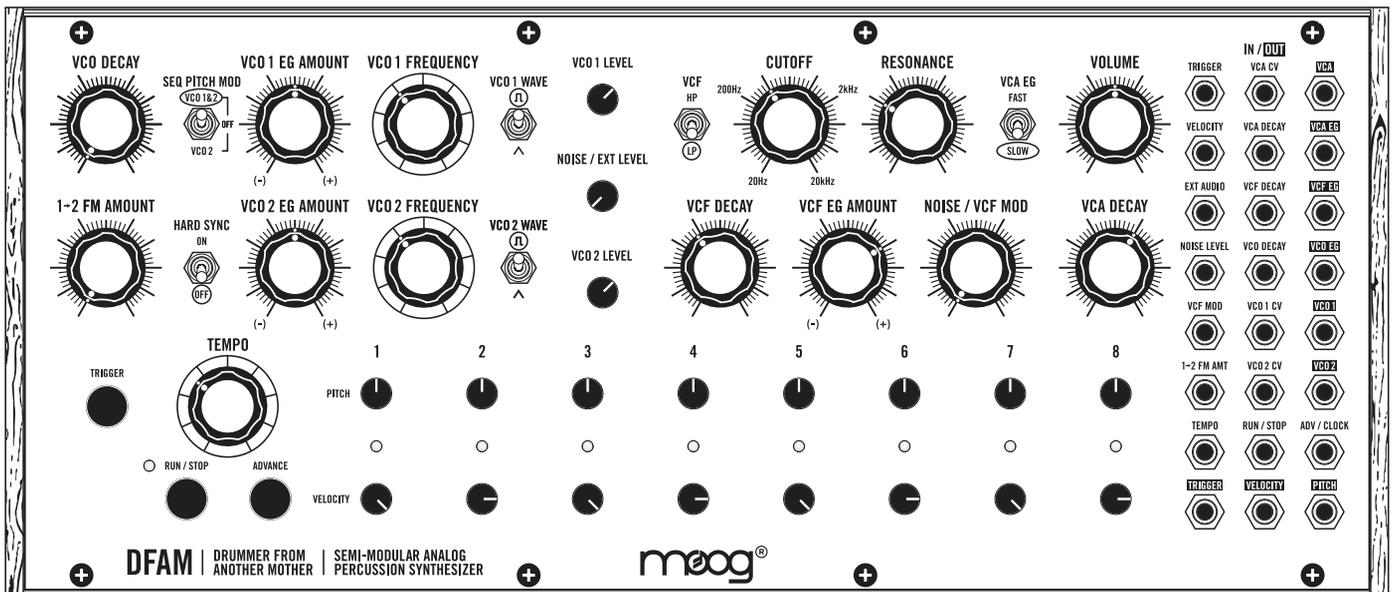
FM TOYS



ポイント

- VCO2でフィルターのカットオフ・フリクエンシーをモジュレーションします。
- [VCO 2 FREQUENCY]ノブを色々に設定してみましょう。
- VCFをLPやHPモードに切り替えて、音色の変化を聴いてみましょう。

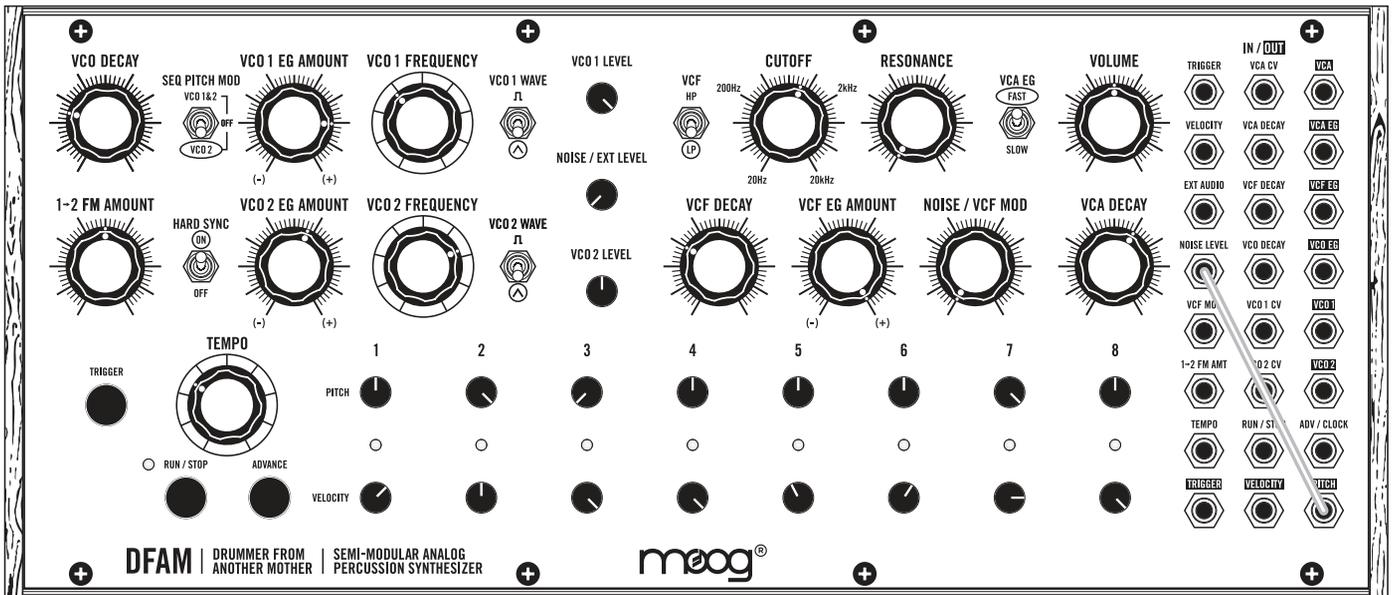
SEQUENCED BASS



ポイント

- [VCO FREQUENCY]ノブでVCO1とVCO2のピッチを合わせましょう。
- シーケンサーの[PITCH 1-8]を微調整してフレーズに変化を付けてみましょう。
- フィルターの[CUTOFF]ノブで好きな音色にしてみましょう。

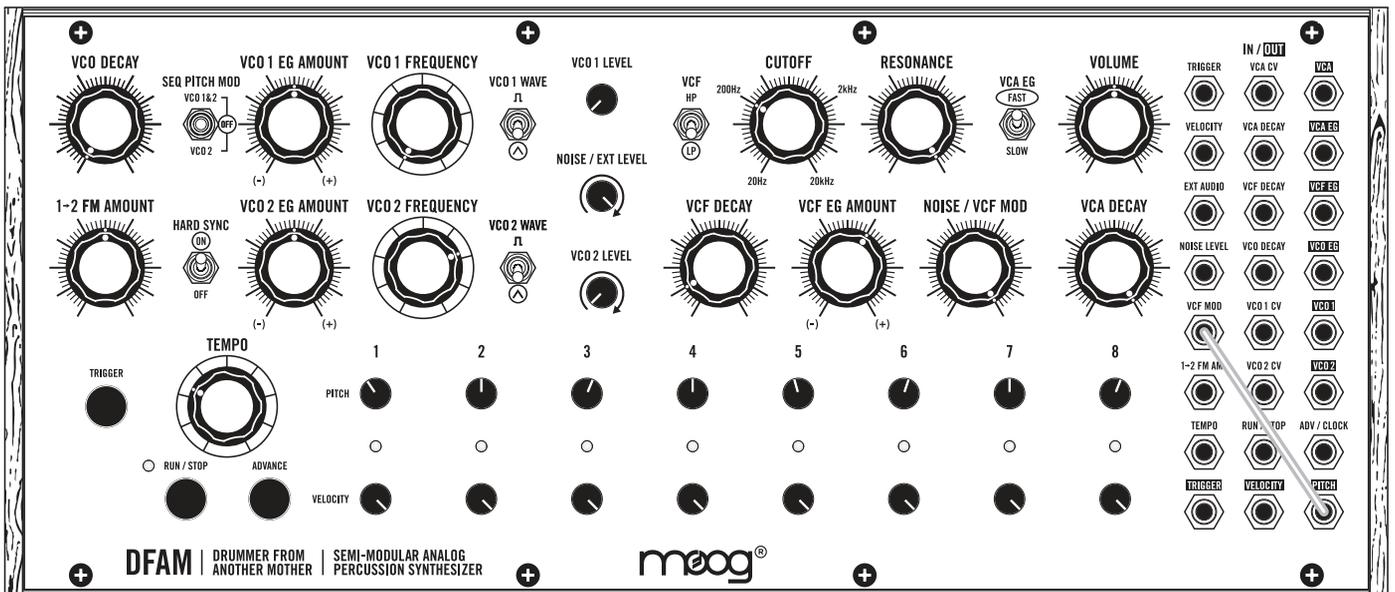
KICK / SNARE / FM OSC 2



ポイント

- シーケンサーの〔PITCH 1-8〕ノブで各ステップの音色が決まります。
- シーケンサーの〔PITCH 1-8〕ノブでスネアのボリュームも決まります。
- シーケンサーの〔VELOCITY 1-8〕ノブを上下させるとキックのパターンが変わります。

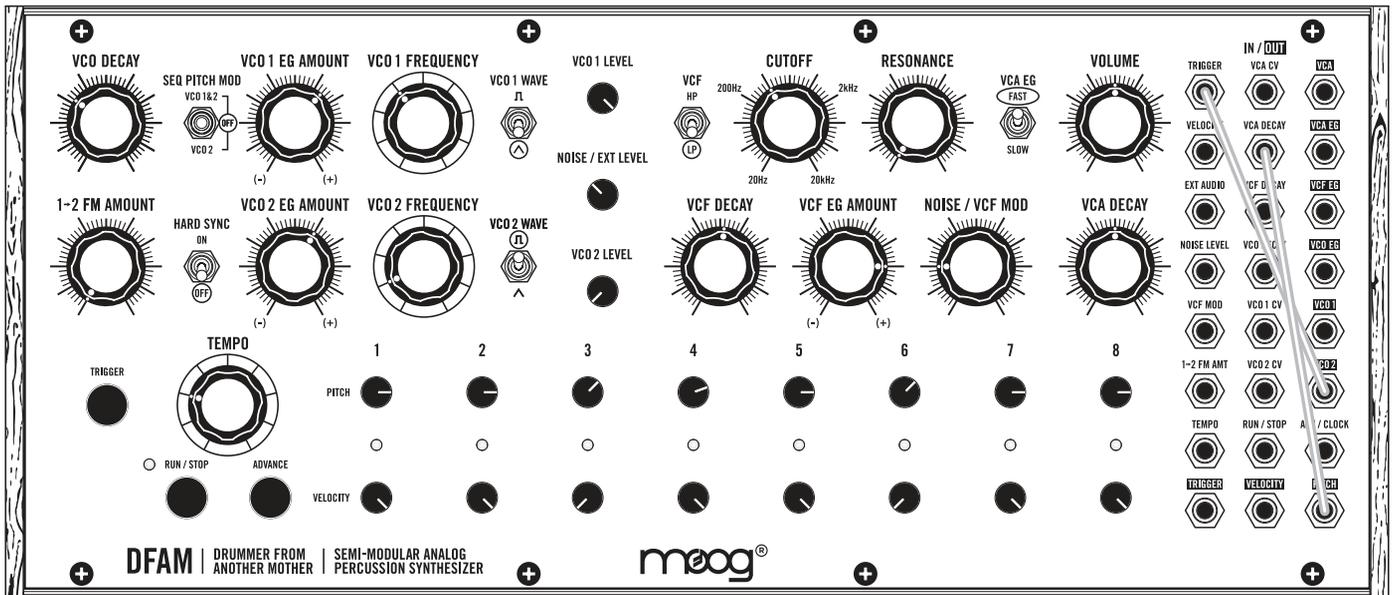
FILTER AS AN OSCILLATOR



ポイント

- シーケンサーの〔PITCH 1-8〕ノブでフィルターの〔CUTOFF〕ノブをコントロールします。
- 〔VCO 2 LEVEL〕ノブで音色のウォブル感を調節します。
- 〔NOISE/EXT LEVEL〕ノブを上げると音色のゴースト感がさらに出ます。

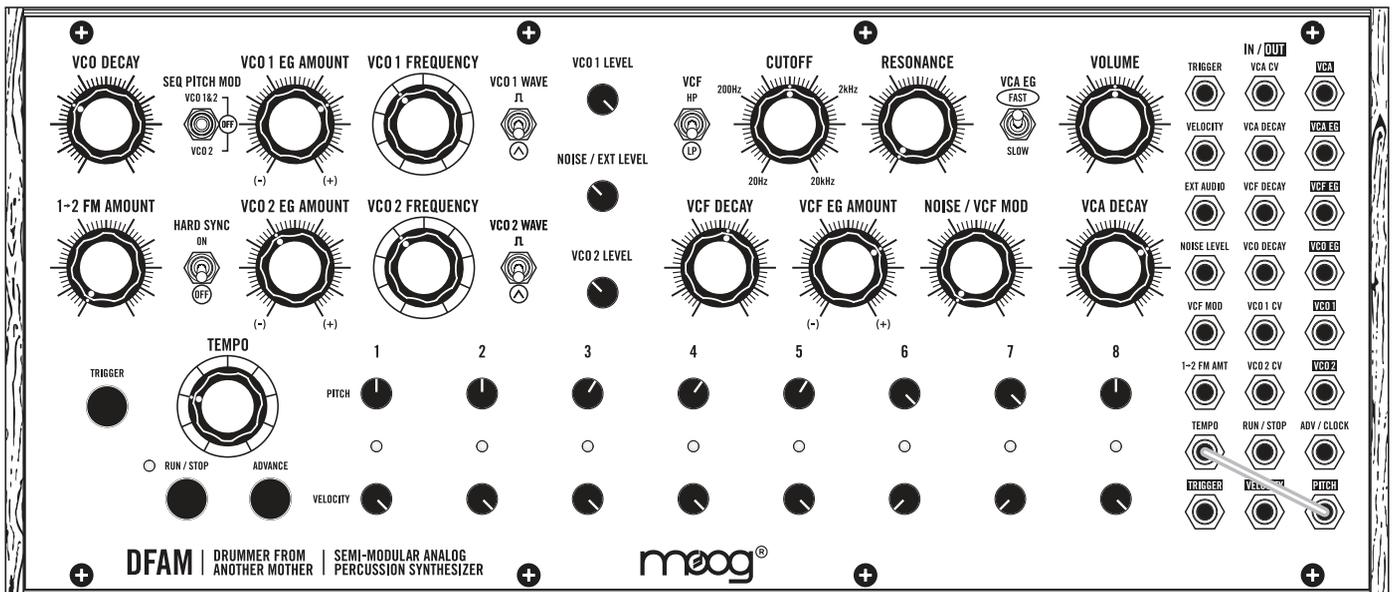
INSANE TOMS



ポイント

- VCO2で別のトリガーを発生させています。
- (VCO 2 EG AMOUNT)ノブを色々に変えて音の変化を聞いてみましょう。
- シーケンサーの(PITCH 1-8)ノブで各ショットの「鳴り」が決まります。

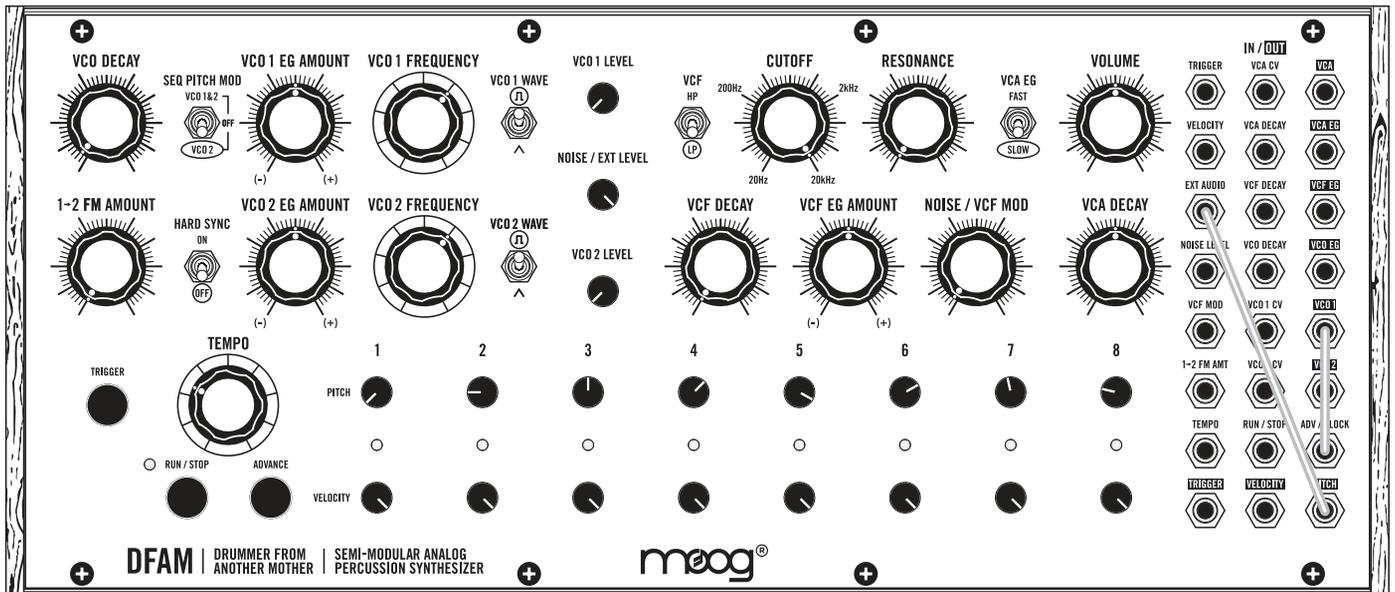
SWING TIME



ポイント

- シーケンサーの(PITCH 1-8)ノブで各ステップの長さが決まります。
- シーケンサーの(PITCH 1-8)ノブを低い設定にすると、そのステップがかなり長くなります。
- (PITCH 1-8)ノブを高い設定にすると、そのステップが相当に短くなります。

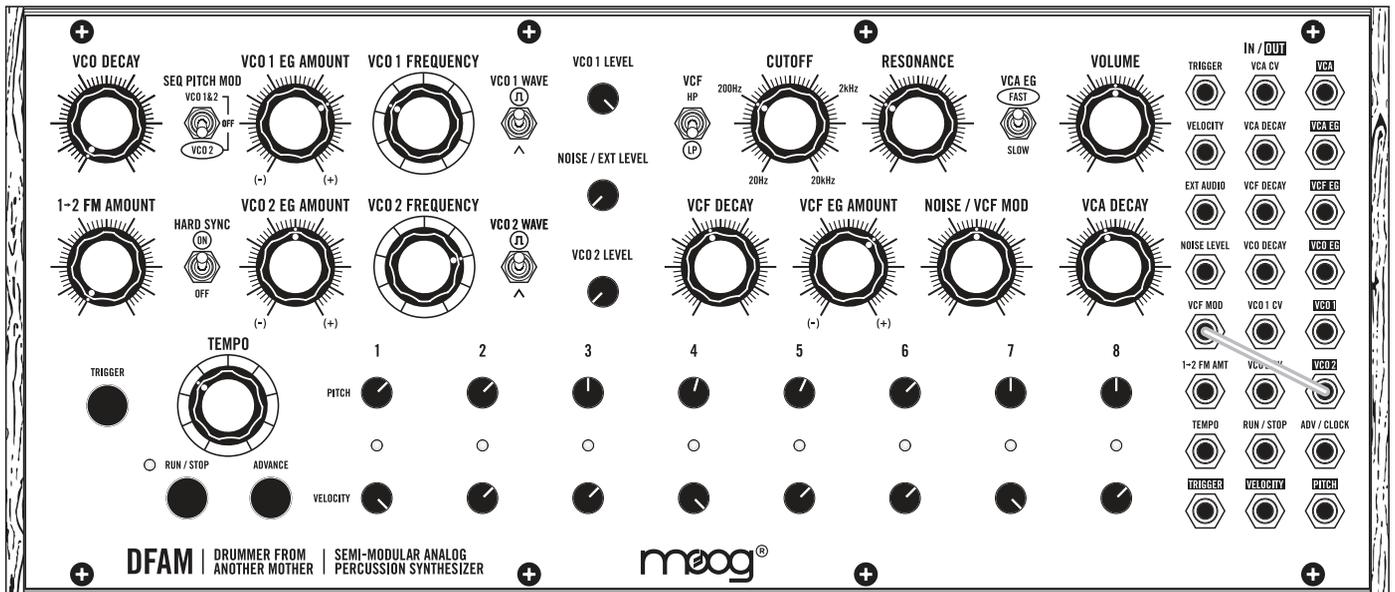
SEQUENCER AS AN OSCILLATOR



ポイント

- (VCO 1 FREQUENCY)ノブでシーケンサーのスピードとピッチをコントロールします。
- シーケンサーの(PITCH 1-8)ノブの設定で波形が変化します。
- (VCO 2 LEVEL)を上げるとワイルドな音色になります。

TALKING DRUM



ポイント

- VCO2でフィルターのカットオフ・フリクエンシーをモジュレーションします。
- (NOISE/VCF MOD)ノブでトーキング・ドラムの声の感じを出します。
- (RESONANCE)ノブを下げると、より強く叩いた感じになります。

PRESET NAME:

ポイント

PRESET NAME:

ポイント

PRESET NAME:

The control panel features a variety of knobs and buttons for sound manipulation. On the left, there are knobs for VCO DECAY, VCO 1 EG AMOUNT, VCO 1 FREQUENCY, VCO 2 EG AMOUNT, VCO 2 FREQUENCY, and VCO 2 WAVE. Below these are knobs for 1-2 FM AMOUNT, VCF DECAY, VCF EG AMOUNT, NOISE / VCF MOD, and VCA DECAY. A TRIGGER button is located on the far left. In the center, there are knobs for VCO 1 LEVEL, NOISE / EXT LEVEL, VCO 2 LEVEL, and VOLUME. The right side of the panel includes a TRIGGER button, a VOLUME knob, and a series of buttons labeled IN / OUT, VCA CV, VCA, VCA DECAY, VCA EG, VCF DECAY, VCF EG, VCO DECAY, VCO EG, VCF MOD, VCO 1 CV, VCO 1, VCO 2 CV, VCO 2, 1-2 FM AMT, RUN / STOP, ADV / CLOCK, TRIGGER, VELOCITY, and PITCH. At the bottom, there are buttons for RUN / STOP, ADVANCE, and VELOCITY. The panel is branded with 'DFAM | DRUMMER FROM ANOTHER MOTHER | SEMI-MODULAR ANALOG PERCUSSION SYNTHESIZER' and the 'moog' logo.

ポイント

PRESET NAME:

This control panel is identical to the one above, featuring the same layout of knobs and buttons for sound manipulation. It includes knobs for VCO DECAY, VCO 1 EG AMOUNT, VCO 1 FREQUENCY, VCO 2 EG AMOUNT, VCO 2 FREQUENCY, VCO 2 WAVE, 1-2 FM AMOUNT, VCF DECAY, VCF EG AMOUNT, NOISE / VCF MOD, VCA DECAY, VCO 1 LEVEL, NOISE / EXT LEVEL, VCO 2 LEVEL, and VOLUME. Buttons include TRIGGER, IN / OUT, VCA CV, VCA, VCA DECAY, VCA EG, VCF DECAY, VCF EG, VCO DECAY, VCO EG, VCF MOD, VCO 1 CV, VCO 1, VCO 2 CV, VCO 2, 1-2 FM AMT, RUN / STOP, ADV / CLOCK, TRIGGER, VELOCITY, and PITCH. Additional buttons at the bottom are RUN / STOP, ADVANCE, and VELOCITY. The panel is branded with 'DFAM | DRUMMER FROM ANOTHER MOTHER | SEMI-MODULAR ANALOG PERCUSSION SYNTHESIZER' and the 'moog' logo.

ポイント

仕様

アナログ・サウンド・エンジン

ソース: VCO1、VCO2、ホワイト・ノイズ・ジェネレーター

フィルター: ハイパス/ローパス(選択式)4ポール(-24dB/Oct)ラダー・フィルター

モジュレーション: VCO EG(電圧制御ディケイ・タイム)、VCF EG(電圧制御ディケイ・タイム)、VCA EG(電圧制御ディケイ・タイム+選択式アタック・タイム)

アナログ・シーケンサー

コントロール: 8ステップ(各ステップにピッチ、ベロシティ・ノブ付き)

テンポ: 10BPM~10,000BPM

その他: マニュアルトリガー、アドバンス・ボタン

パッチベイ

ジャック: 3.5mm×24

インプット: 3.5mm×15

アウトプット: 3.5mm×9

リアパネル

オーディオ出力: 1/4インチ(6.35mm:標準)TRSヘッドフォンまたは1/4インチ(6.35mm:標準)TS

電源コネクタ: 外部パワー・サブライ用コネクタ

外形寸法、重量

外形寸法: 319 (W) x 107 (D) x 133 (H) mm

重量: 1.6kg

パワー・サブライ(付属)

形式: ウォール・アダプター、バレル型プラグ、センター・プラス

入力: AC100~240V、50/60Hz

出力: DC+12V、1200mA

消費電力

定格: 3.0W

ユーロラック仕様

消費電流: 230mA(最大)、DC+12V(10ピン電源ヘッダ)

マウント・スペース: 60HP(モジュール奥行き:26mm)

すべての仕様は予告なく変更することがあります。

アクセサリ(別売)

- 2ティア・バーティカル・ラック・キット
- 3ティア・バーティカル・ラック・キット
- ギグ・バッグ
- 3.5mmパッチ・ケーブル・パック(5本入、長さ約15cm)
- 3.5mmパッチ・ケーブル・パック(5本入、長さ約30cm)
- Moogユーロラック・ケース(60HP、104HP)
- パワー・サブライ(DFAM、Mother-32用)

アフターサービス

■ 保証書

本製品には、保証書が添付されています。
お買い求めの際に、販売店が所定事項を記入いたしますので、「お買い上げ日」、「販売店」等の記入をご確認ください。
記入がないものは無効となります。
なお、保証書は再発行致しませんので紛失しないように大切に保管してください。

■ 保証期間

お買い上げいただいた日より一年間です。

■ 保証期間中の修理

保証規定に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。
本製品と共に保証書を必ずご持参の上、修理を依頼してください。

■ 保証期間経過後の修理

修理することによって性能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料で修理させていただきます。ただし、補修用性能部品（電子回路などのように機能維持のために必要な部品）の入手が困難な場合は、修理をお受けすることができませんのでご了承ください。また、外装部品（パネルなど）の修理、交換は、類似の代替品を使用することもありますので、あらかじめお買い上げの販売店、最寄りのコルグ営業所、またはサービス・センターへお問い合わせください。

■ 修理を依頼される前に

故障かな?とお思いになっただけで取扱説明書をよくお読みのうえ、もう一度ご確認ください。
それでも異常があるときはお買い上げの販売店、最寄りのコルグ営業所、またはサービス・センターへお問い合わせください。

■ 修理時のお願い

修理に出す際は、輸送時の損傷等を防ぐため、ご購入されたときの箱と梱包材をご使用ください。

■ ご質問、ご相談について

アフターサービスについてのご質問、ご相談は、お買い上げの販売店、最寄りのコルグ営業所、またはサービス・センターへお問い合わせください。
商品のお取り扱いに関するご質問、ご相談は、お客様相談窓口へお問い合わせください。

WARNING!

この英文は日本国内で購入された外国人のお客様のための注意事項です

This product is only suitable for sale in Japan. Properly qualified service is not available for this product elsewhere. Any unauthorised modification or removal or original serial number will disqualify this product from warranty protection.

株式会社コルグ

お客様相談窓口 TEL 0570 (666) 569

●サービス・センター：〒168-0073 東京都杉並区下高井戸1-18-16 KORG桜上水ビル2F

輸入販売元: KORG Import Division
〒206-0812 東京都稲城市矢野口4015-2
WEB SITE: <http://www.korg.com/jp/kid/>

KORG

本社: 〒206-0812 東京都稲城市矢野口4015-2

URL: <http://www.korg.com/jp/>